

3 清水VI遺跡

(1) 概要

清水VI遺跡はⅢ区の東側に隣接し、V区で確認された埋没谷の東縁に位置する。古墳時代終末期と奈良時代の遺構はA区とD区、平安時代の遺構はB区、中世の櫻下城の外堀はF区及び櫻下城に関連する遺構群は、B区、C区、E区で確認された。主な検出遺構は竪穴住居址5軒、壠2カ所、竪穴建物1軒、地下式土坑2基、溝及び耕作溝、土坑、ピット群である。出土遺物は縄文土器（加曾利E式）、石礫、打製石斧、スクレイバー等、奈良・平安時代の土師器（环、小形甕、甕）及び須恵器（环、碗、蓋、高盤、甕）、鉄、中世の土器（瓦質陶器等）である。特筆される遺物として暗文土器、「井」等の刻書土器及び墨書き土器がある。

(2) 縄文時代の遺物（第61図）

縄文時代の遺構は検出されなかったが、調査区覆土中から中期後半の土器及び石器が少数出土した。10はチャート製の石礫（平基有茎：Ⅲ形態）である。11は頁岩製の打製石斧（分銅形：Ⅲ形態）である。2点とも形態的特徴から後期以降に帰属するものと思われる。

(3) 古墳～奈良時代の遺構と遺物

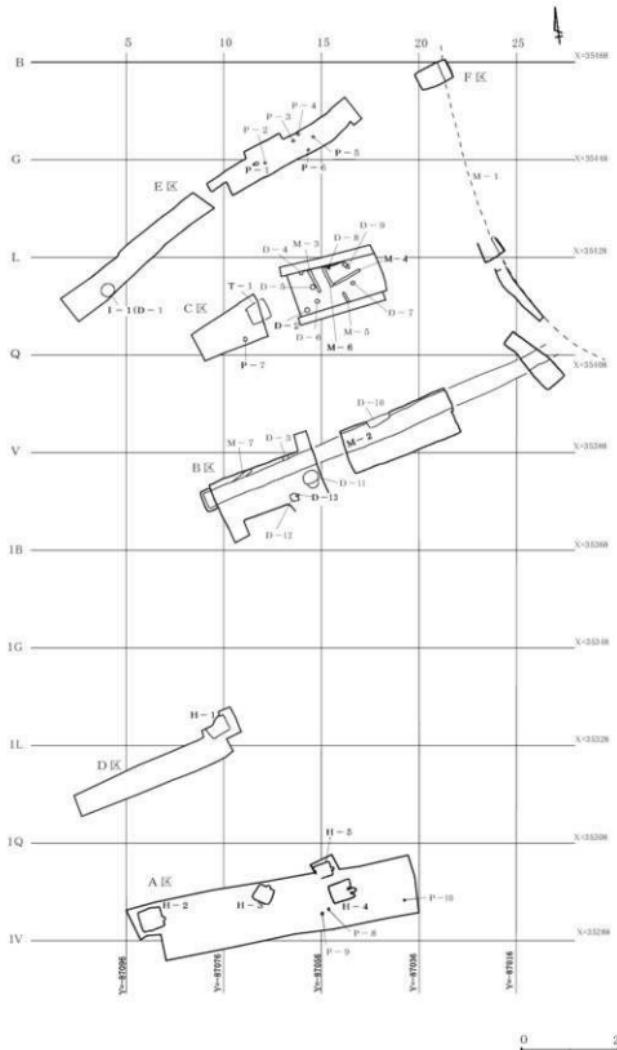
1. 遺構

住居址（第54図～第58図）

古墳時代終末期1軒と奈良時代の住居址4軒が検出された。主軸が北方向になるH-3号住居址を除き、他は全て東方向である。住居址の平面形態は一辺が4m以下の小形のものと5m以下の中形に分けられ、正方形とそれに近い長方形に分けられる。壁溝はH-3号住居址以外でみられ、全周するものと一部に及ぶものに分けられる。主柱穴は無く、浅い小ピットが不規則に認められるだけである。竈は北中央に設置されるH-3号住居址以外は、東及び南寄りに設置されている。竈の構造は地山を掘り窪めて、袖を粘土で作り、袖石と天井石が無い簡易型のタイプだが、H-3号住居址の竈には両者が認められる。貯蔵穴は竈の位置に対応し、右側に存在する。全ての住居址に掘り方が認められ、この時期に特徴的なローム混じりの土を埋め戻す貼り床構造である。また、床面中央部を中心に深い床下土坑が設けられている。住居址覆土は人為的埋め戻しによるものと思われる。

遺物出土状況

各住居址で土器は、ほぼ全域で上層から下層に至るまで出土がみられたが、特に床面付近でまとまって出土する傾向がみられた。また、竈内でも多数出土がみられた。土器は覆土中のものは破片が主体であったが、床付近（3層）の土器は一部で完形品（個体）も出土した。石器ではH-1号住居址において竈右側で礫の集中、H-2号住居址において壁溝の切れ目付近で礫物石の集中がみられた。



第53図 清水VI遺跡 遺構配置図

土坑（第64図）

3基検出された。D-12号土坑は遺構の状態から、D-13号土坑と一体化したものと考えられ、遺構のつながりから住居址の一部と推定される。D-13号土坑は浅い掘り込みである点、覆土に焼土及び炭が混入している点から、住居址東側に設置された竈跡と思われる。出土遺物から住居址と同時期の奈良時代の所産と思われる。

平安時代の土坑は、M-2号溝と重複するD-3号土坑である。D-3号土坑は覆土中に浅間B軽石が混在し、墨書き器を含む土器と鉄製品が出土した。

(井上慎也)

住居址観察表

| 住居名 | 平面形態 | 規模 | | | 壁構 | 主軸方向 | 土坑 電脳 床下 | 柱穴 × | 壁面 π' (r) | 貼 床 | 遺 物 | | 時期 | 備考 | |
|-----|-------|------|------|------|--------|---------|----------------|---------|--------------|--------|--------|-------|-----|----|-------------------------|
| | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | | | | 位置 | 構造 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| H-1 | 中形正方形 | 4.12 | 3.24 | 0.24 | 一 面 | N-59°-E | × | 3 | × | × | ○ | 北東/中央 | A | II | 野営穴はD-1。電脳に複数集中。暗文土器出土。 |
| H-2 | 中形正方形 | 4.72 | 4.21 | 0.72 | 全 周 | N-80°-E | 右 | 1 | × | × | ○ | 東/南寄 | A | II | 東壁際に編物石集中。暗文土器出土。 |
| H-3 | 小形長方形 | 3.36 | 3.68 | 0.84 | × | N-34°-E | × | 1 | 不明 | × | △ | 北東/中央 | B | I | 床面中央に土坑。龜内に焼残る。 |
| H-4 | 中形長方形 | 4.56 | 3.92 | 0.68 | 全 周 | N-77°-E | 右 | 7 | × | × | ○ | 東/南寄 | E | II | 床下土坑多数。暗文・墨書き土器出土。 |
| H-5 | 小形長方形 | 3.58 | 2.78 | 0.24 | 一 面 | N-80°-E | 右 | 1 | 不明 | × | × | 東/中央 | (A) | II | 床中央に深い土坑。龜内に支脚(礎)残る。 |

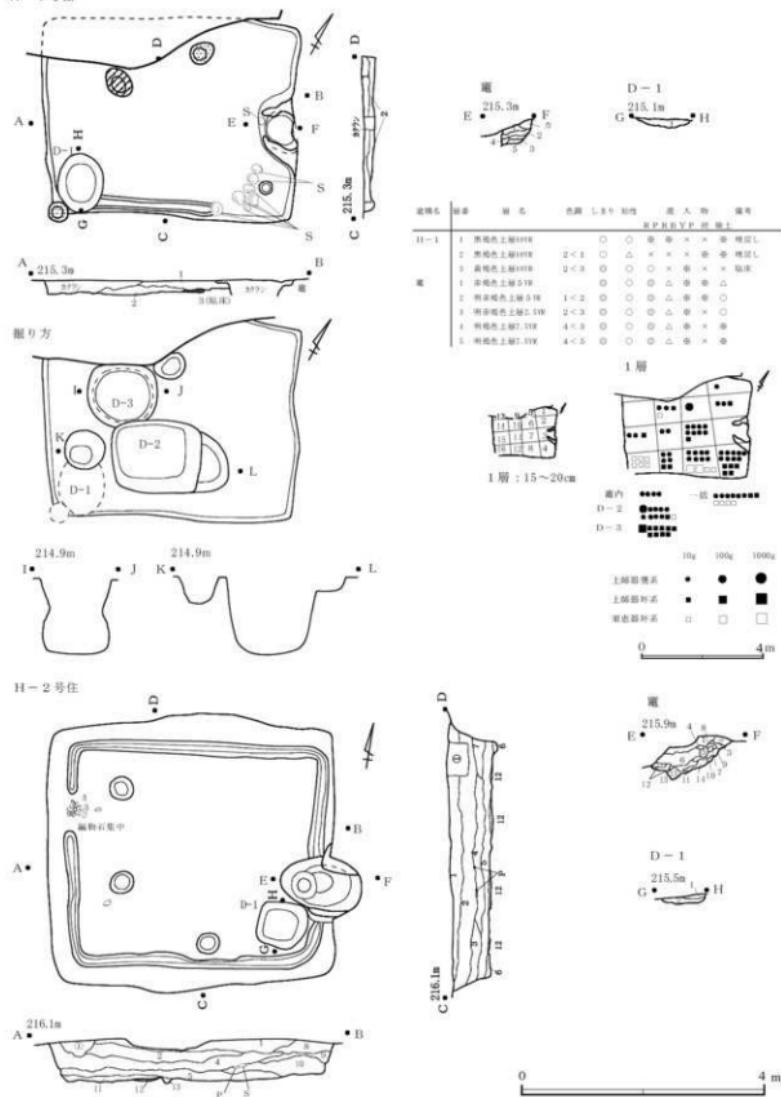
土坑観察表

| 遺構名 | 規模(上) | | 規模(下) | | 深さ | 平面形態 | 断面 | 遺物 | | 時期 | 所見 | | |
|------|-------|------|-------|------|----|------|----|------------|--|------|------------------------|--|--|
| | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| D-2 | 96 | 89 | 80 | 77 | 20 | 円形 | 箱状 | | | 中世 | 覆土にB軽石。 | | |
| D-3 | 115 | (75) | 87 | (71) | 40 | 円形 | 箱状 | 須恵器壺、碗、鉄製品 | | 古代 | 覆土にB軽石。 | | |
| D-4 | (66) | (52) | 83 | 55 | 30 | 楕円形 | 直状 | | | | 鐵文 | | |
| D-5 | 100 | 50 | 43 | 25 | 円形 | 直状 | | | | 古代以降 | | | |
| D-6 | 88 | 70 | 57 | 43 | 34 | 楕円形 | 箱状 | | | 古代以降 | | | |
| D-7 | 84 | 68 | 58 | 43 | 32 | 円形 | 箱状 | | | 古代以降 | | | |
| D-8 | (59) | 84 | (24) | 59 | 25 | 不明 | 直状 | | | 古代以降 | | | |
| D-9 | 149 | 76 | 50 | 45 | 23 | 不整形 | 直状 | | | 中世 | 覆土にB軽石。 | | |
| D-12 | 203 | 162 | 162 | 147 | 32 | 楕丸方形 | 箱状 | | | 古代以降 | D-13と同一遺構。 | | |
| D-13 | 63 | 55 | 47 | 43 | 18 | 楕円形 | 直状 | 須恵器壺 | | 古代以降 | D-12と同一遺構。覆土に灰化物・焼土混入。 | | |

< >は残存壁

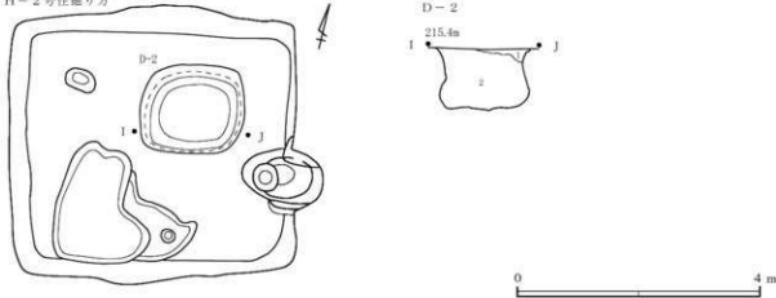
第5表 古墳～奈良時代遺構観察表

H-1号住



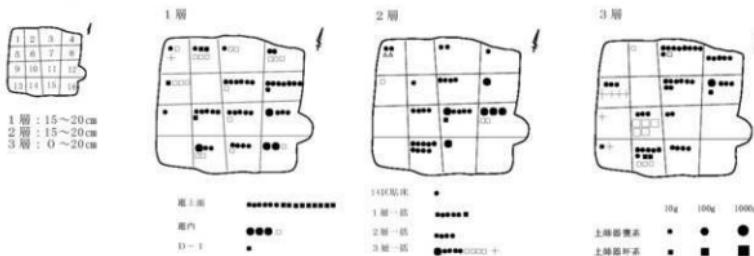
第54図 H-1号・H-2号住居址実測図

H-2号住掘り方

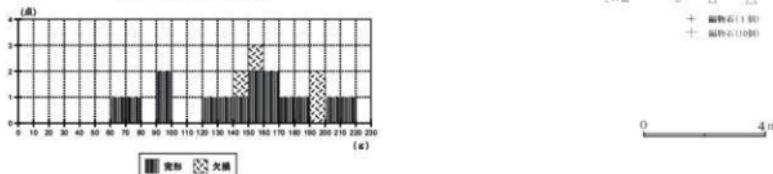


| 通称名 | 種番 | 名 | 色調 | L/S比 | 粒度 | 吸水性 | 膨潤性 | 耐候性 | 物理的性質 | | | | 規格 | |
|-----|------|--------|-------|------|----|-----|-----|-----|-------|----|----|-----|----|---|
| | | | | | | | | | HP | EP | BP | 吸水性 | | |
| 1-1 | 黒色土上 | 上級10%土 | ○ | ○ | × | × | + | △ | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | ※ |
| 2 | 黒色土上 | 上級10%土 | 1~2 | ○ | ○ | × | × | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | ※ |
| 3 | 黒色土上 | 上級10%土 | 2~3 | ○ | ○ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | ※ |
| 4 | 黒色土上 | 上級10%土 | 2~4 | ○ | ○ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | △ |
| 5 | 黒色土上 | 上級10%土 | 4~5 | ○ | ○ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | △ |
| 6 | 黒色土上 | 上級10%土 | 6~5 | ○ | ○ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | △ |
| 7 | 黒色土上 | 上級10%土 | 7~4 | ○ | ○ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | △ |
| 8 | 黒色土上 | 上級10%土 | 8~9 | ○ | ○ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | × |
| 9 | 黒色土上 | 上級10%土 | 8~9 | ○ | ○ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | ○ |
| 10 | 褐色土上 | 上級10%土 | 9~10 | ○ | ○ | △ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | ○ |
| 11 | 褐色土上 | 上級10%土 | 5~11 | ○ | ○ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | ○ |
| 12 | 褐色土上 | 上級10%土 | 5~12 | ○ | ○ | △ | △ | △ | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | ○ |
| 13 | 黒色土上 | 上級10%土 | 13~5 | ○ | ○ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | × |
| 14 | 黒色土上 | 上級10%土 | 1~13 | △ | △ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | ○ |
| 15 | 黒色土上 | 上級10%土 | 1~13 | △ | △ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | ○ |
| 16 | 黒色土上 | 上級10%土 | 11~14 | ○ | ○ | ○ | + | + | 1~5倍 | ○ | ○ | ○ | 中 | ○ |

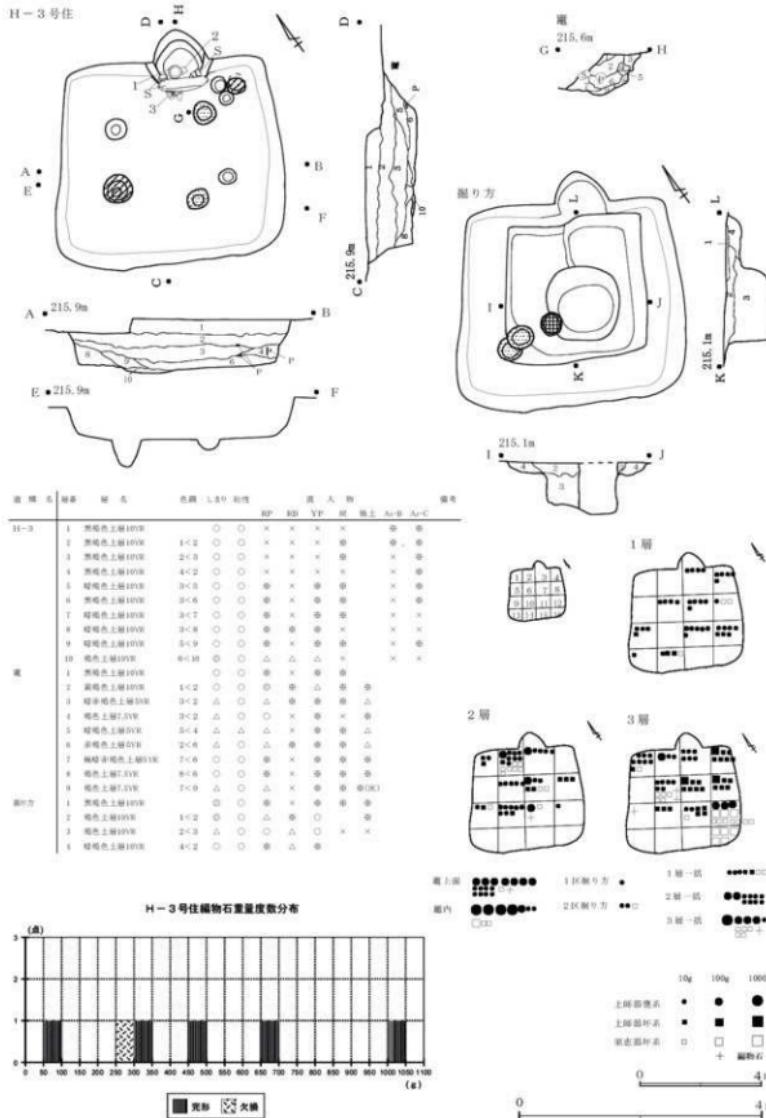
H-2号住造物分布圖



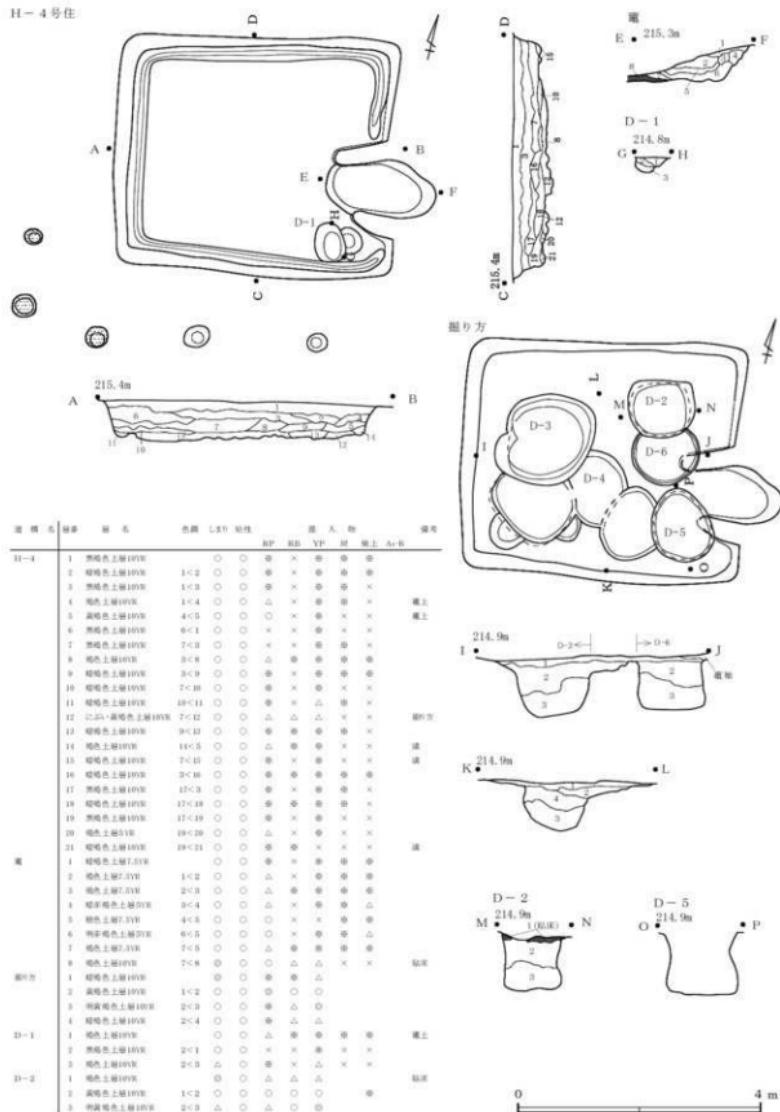
H-2号柱矿物石重量度数分布



第55図 H-2号住居址実測図

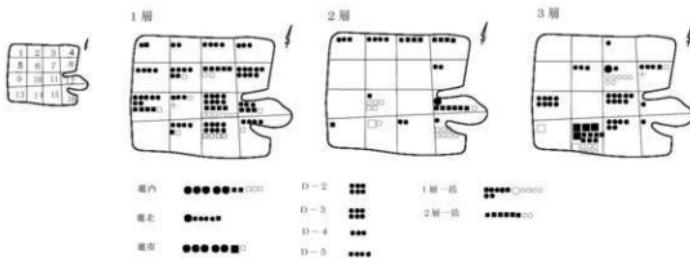


第56図 H-3号住居址実測図

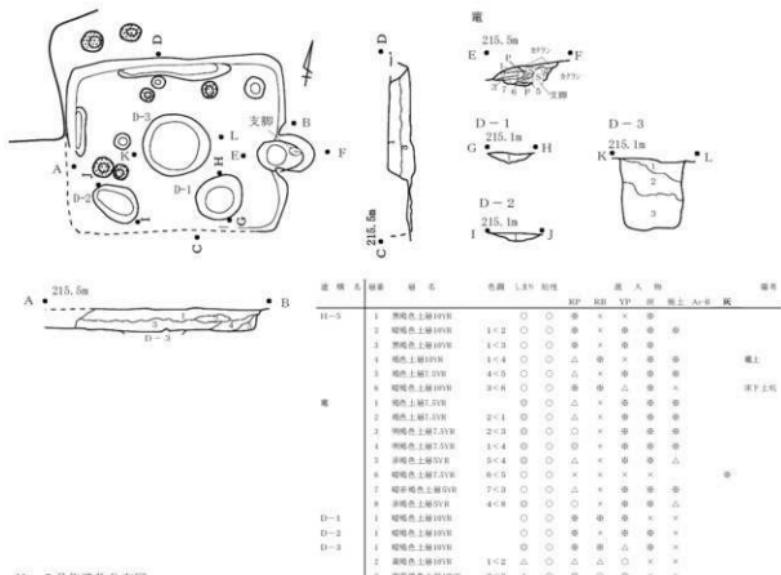


第57図 H-4号住居址実測図

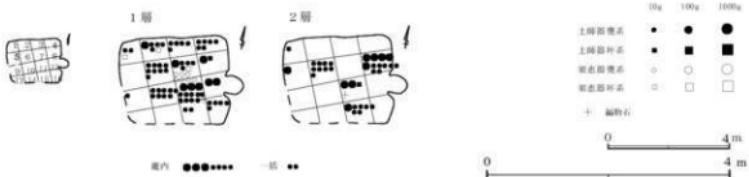
H-4号住灌物分布图



H-5号住



H-5号住遗物分布图



第58図 H-4号・H-5号住居址実測図

2. 遺物

土器

H-1号住居址出土の土器（第59図）

1は土師器の环で内面には弱い放射状、渦巻き状の暗文が描かれる。8世紀前半の土器群である。

H-2号住居址出土の土器（第59図）

3は土師器の环である。内面には弱い放射状、渦巻き状の暗文が描かれる。4は須恵器の蓋である。ロクロ整形で環状把手が付き、「かえり」が認められる。8世紀前半の土器群である。

H-3号住居址出土の土器（第59図・第60図）

5～9は土師器の环である。口縁部は横ナデで、やや内湾気味となる。体部は笠削りを施す。器高はやや高い。10は須恵器の盤（皿）である。脚が付く可能性もある。11は須恵器の高盤である。内面には同心円状の印目が観察される。13は須恵器の長頸壺の胴部分と思われる。土師器の甕（1～3）は、口縁が外反し、長胴化が認められる。外面調整は縱方向の笠削りである。7世紀終末から8世紀初頭の土器群である。

H-4号住居址出土の土器（第60図）

須恵器の环は、ロクロ整形で底部切り離しは笠切りである。5には刻書（文字かは不明）が認められる。7は土師器の环で内面にやや弱い放射状、渦巻き状の暗文が描かれる。また、暗文と重複して「井」の刻書が認められる。8は須恵器の盤（皿）、9は須恵器の環状把手が付く蓋である。10は土師器の鉢、11は須恵器の腹胴部破片で内面には同心円の印目が観察される。12は土師器の甕で口縁が外反し、器厚は薄い。8世紀前半の土器群である。

H-5号住居址出土の土器（第61図）

1は須恵器の腹胴部破片である。土師器の甕（2～4）は、口縁が屈曲し、器厚は薄く胴部が膨らむ。外面調整は斜めあるいは横方向の笠削りが主体である。4は胴部より口縁部が大きく開く形態で頭部が狭く「コ」の字状となる。8世紀後半の土器群である。

D-3号土坑出土の土器（第61図）

須恵器（酸化焰）の高台付碗（6・8）、环（7）である。7の底面外側には薄く「土」（文字かは不明）の墨書が観察される。8の内面にも墨痕（文字かは不明）が観察される。9世紀後半～10世紀前半の土器群である。

D-13号土坑出土の土器（第61図）

5は須恵器の环である。8世紀前半の土器である。

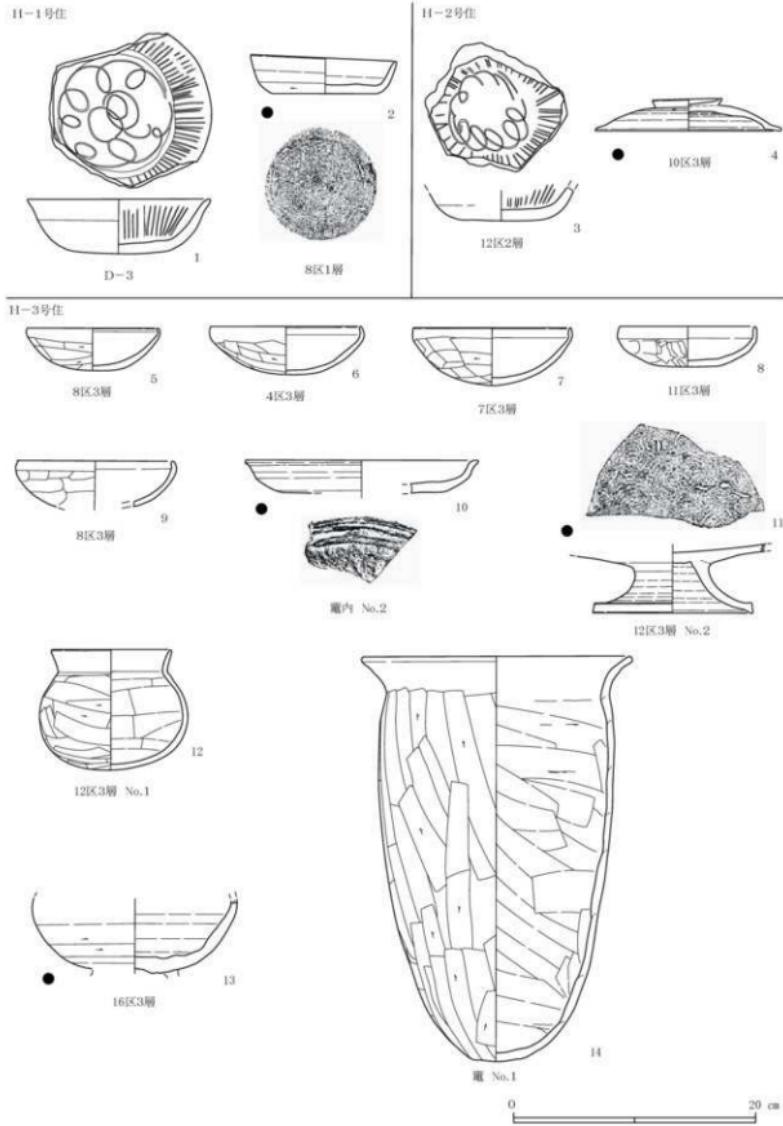
D-3号土坑出土の鉄（第61図）

9は円形の鉄製品である。錆で覆われているため形態は不明である。紡錘車の一部とも考えられる。

礪物石

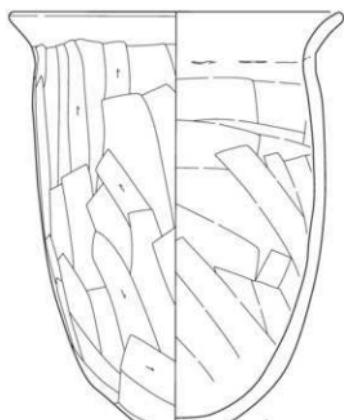
石材は全て楕円形で細長い安山岩である。H-2号住居址からは、19点（うち欠損4点）、H-3号住居址からは、6点（うち欠損1点）出土した。H-4号及びH-5号住居址からは各2点出土した。大きさの平均値は、H-2号住居址で長さ83.6cm、幅46.4cm、厚さ24.4cm、重量143.7g、H-3号住居址で長さ116.4cm、幅57.0cm、厚さ46.8cm、重量521.6gである。

（井上慎也）

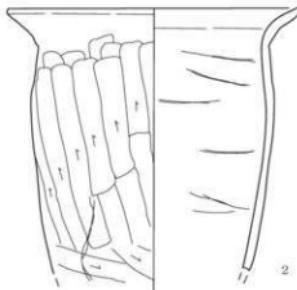


第59圖 H-1号・H-2号・H-3号住居址出土土器実測図

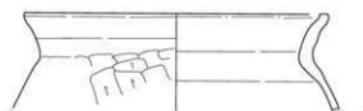
H-3号住



電内 No.4

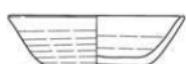


電 No.3



電内 No.1

H-4号住



13区3層+14区2層ベルト



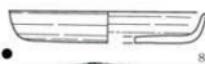
14区3層



10区2層



7区1層サブトレ



8



11区1層



14区3層

電+15区



11区1層サブトレ

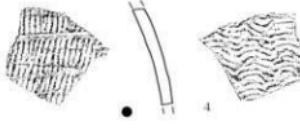
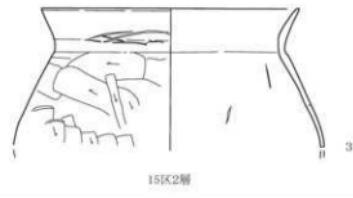
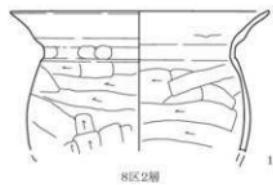


電内

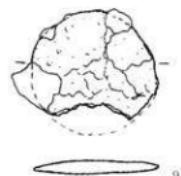
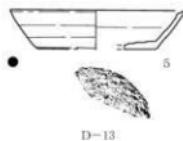
0 20 cm

第60図 H-3号・H-4号住居址出土器実測図

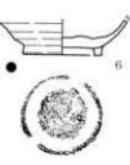
H-5号住



土坑

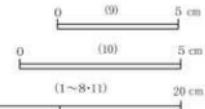
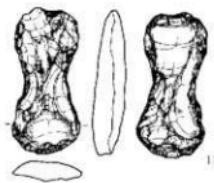
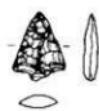


D-3-4区中層 9



D-3-4区中層

道構外(簡文)



第61図 H-5号住居址・土坑出土土器・その他の遺物実測図

(4) 中近世の遺構と遺物

中近世の遺構は調査区北側、B区、C区、E区、F区で検出された。検出された遺構は、調査区西に隣接する中世櫓下城に関連したものと推定される。主な遺構は、竪穴建物、井戸、地下式土坑、土坑、ピット群、堀・溝である。

竪穴建物（第63図）

C区西で検出された。一部現道にかかっていたため半分のみの調査となった。平面方形と推定される。床面には焼土が確認されたが、柱跡と外側にはピットが並ぶ。これらのピットは柱穴と推定される。また、床中央部には深さのあるピットが1カ所検出された。遺構南では入口と思われるテラス状の張り出し部が認められた。遺構の覆土は、浅間B軽石を含む黒色土で埋め戻されている。

井戸（第63図・第68図）

E区西で検出された。調査の安全確保のため、底（水面）まで完掘できなかった。推定深さは3m以上である。平面円形で所々オーバーハングしている。覆土は浅間B軽石を含む土である。17層付近では安山岩の大形礫と土器片が出土した。なお、隣接するIII区では、井戸が1基検出され、「十四」と刻書されたかわらけが出土している。

井戸からは、瓦質陶器片が少数出土した。1は内耳土鍋、2は鉢である。

地下式土坑（第64図）

B区M-2号堀の両側で2基検出された。2基とも天井が崩落、陥没した状態で検出された。D-10号地下式土坑は、平面長方形である。覆土の状況から、西側が部屋部分で、東側が入口部分であると推定される。遺物は出土しなかった。切り合い関係によりM-2号堀より古い。D-11号地下式土坑は、平面長方形に円形の張り出し部が付く。南側が入口部分であると推定され、土坑内の床面付近では礫の廃棄が認められたが、それ以外の遺物は出土しなかった。覆土には浅間B軽石が混入する。なお、地下式土坑は、杉名薬師遺跡で1基検出されている。

土坑（第64図）

B区とC区で検出された。中世の土坑は、覆土に浅間B軽石を含むD-2、9号土坑である。それ以外は時期及び性格とともに不明である。

ピット群（第65図）

E区で多数のピットが検出された。調査範囲が狭いこともあり、配列を確認することはできなかった。大きさと深さが同じピットが集中することから、建物が存在した可能性が考えられる。

櫓下城堀（第66図）

F区で櫓下城の外堀部分の一部と推定されるM-1号堀を検出した。調査の制約もあり、2カ所のトレンチ調査で確認調査を実施した。調査では外堀の外側ラインを確認したのみである。今回の調査によって、以前より推定されていた外堀の存在していたことが証明された。覆土中の浅間A軽石及びその混入土層の状況から、18世紀後半まで堀部分が埋んでいたものと推定される。

堀（第66図・第67図）

B区で調査区に平行して検出された。M-2号堀は発掘調査によって新たに発見された遺構である。堀の規模を把握するため、調査区を拡張して確認を実施した結果、調査区西側2mで堀際が検出された。

また、東側ではM-1号堀（外堀）まで伸びている可能性が高いことが判明した。調査の制約上、両堀の切り合い関係については把握することはできなかった。M-2号堀は推定全長約80m、幅約4m、深さ約2mを測る。断面形態は薬研堀、堀底は平坦である。堀の南側にはピットが多数検出されたが、表土が薄くV層上面まで削平されていたため、土居が存在していたかを確認することはできなかった。覆土の状況から、堀を掘削したときのローム混入土を人为的に埋め戻していることから、堀の一方で盛り土が存在した可能性が高い。堀からは、時期不明の土器小破片と近世の遺物が少数出土したが、堀の時期を特定できるものはない。

溝（第68図）

B区とC区で5条検出された。同様な形態の遺構は、「土坑」として報告される場合がある。全て覆土に浅間B軽石を含む。長さは異なるが、幅約40cm。深さ約30cmと一定である。遺物は出土しなかった。M-7号溝は切り合い関係により、M-2号堀より古い。これらの溝は、耕作用貯蔵穴とも考えられるが、性格は不明である。

桜下城について（第62図）

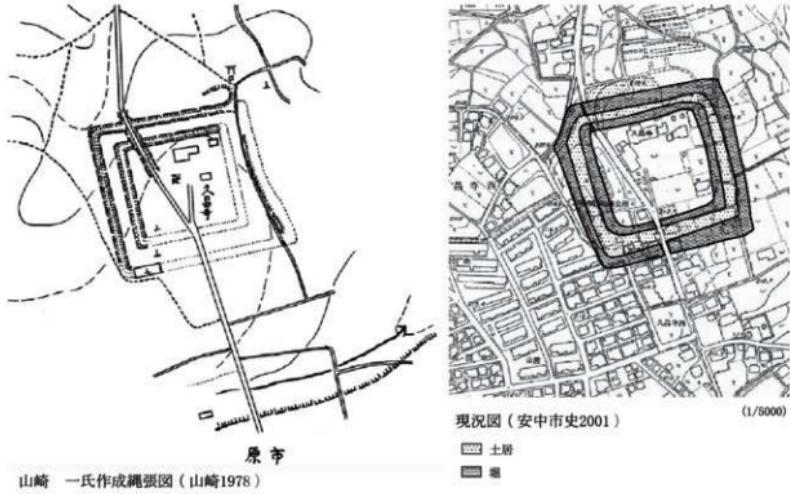
桜下城は別名「鶴巣城」と呼ばれ、現在の久昌寺境内に存在する。記録では、大永5年（1525年）に安中忠清が築城し、永禄2年（1559年）に安中忠政が安中城（野尻）へ移るまで存続した城である。桜下城の綱張りについては、山崎一氏により調査・推定されている（山崎1976）。現存する遺構から推定される綱張りは、二重堀（内堀・外堀）に囲まれた方形区画の平城で、主郭、土居、戸口等の遺構が現存する。主郭部分は現況で一辺約100m（一町四方）の規模と推定される。桜下城の主軸は、北北西（ほぼ真北）方向で、長軸方向約190m、短軸方向約170mの規模を測る。二重堀は、北面と北面で現存する。内堀と外堀の間と北側の外側には土居が現存する。外側に土居が囲まれていたかは不明である。南西隅の土居のみ幅が広くなっている。城の南側中央にある道路部分が、戸口（入口）と直線に延びる大手口と推定される。

記録では、桜下城を築城した安中忠清は、忠親の弟で従三位、伊賀守と号していた。弘治3年（1557年）10月17日、八十三歳で病死する。墓は久昌寺にある。

桜下城とVI区の遺構群との関係

VI区で検出された遺構群は、形態及び覆土の状況から、全て中世の遺構で時間的にも同時性をもつともと思われる。桜下城は、16世紀前半から中頃まで存続した城である。II区及びV区で検出された土器生産に係わる遺構群は、15世紀後半を主体としており、桜下城築城よりやや時代が下る。VI区で検出された遺構群は、両者との関連が強いものと推定される。遺構の切り合い関係から、M-2号堀はD-10号地下式土坑より新しいことから、桜下城以前に中世の集落が存在していた可能性が考えられる。したがって、VI区の遺構群は桜下城以前のもので、II区及びV区の遺構群との関連性が高いものと推定される。

（井上慎也）



山崎 一氏作成繩張図（山崎1978）

第62図 梶下城繩張図

堅穴建物

(単位: m)

| 住居名 | 平面形態 | 規模 | | | 壁構 | 主軸方向 | 柱穴 | 炉址 | | 遺物 | 時期 | 備考 |
|-----|-------|------|-----|-----|----|---------|--------|------|-----|----|----|---|
| | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | 位置 | 構造 | | | |
| T-1 | 中形長方形 | <2.5 | 4.0 | 0.6 | × | N-78°-E | 壁 頭 | 北西中央 | 地床炉 | 無し | 中世 | 1/2を調査。南側に付帯施設(入口と思われる張り出し部)。炉址と重複するピットを確認。 |

井戸観察表

(単位: cm)

| 遺構名 | 規模(上) | | 規模(下) | | 深さ | 平面形態 | 遺物 | 時期 | 所見 |
|-----|-------|-----|-------|-----|------|------|------------|----|----------------------|
| | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | | | | |
| I-1 | 1.4 | 1.3 | 0.9 | 0.9 | <1.8 | 円形 | 下層で土器片と鍍出土 | 中世 | 人為的埋め戻し。所々オーバーハングする。 |

地下式土坑観察表

(単位: cm)

| 遺構名 | 規模(上) | | 規模(下) | | 深さ | 平面形態 | 遺物 | 時期 | 所見 |
|------|---------|---------|---------|---------|-----|---------|------------|----|--------------------|
| | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | | | | |
| D-10 | 4.8 | 2.6 | <1.4 | <1.4 | 1.6 | 隅丸長方形 | 無し | 中世 | 東側が入口部と推定される。天井崩落。 |
| D-11 | 2.4+1.1 | 3.2+2.4 | 1.8+0.6 | 3.1+1.1 | 1.9 | 長方形+突出部 | 覆土内に大量の鍍廃棄 | 中世 | 突出部は入口か。天井崩落。 |

堀・溝観察表

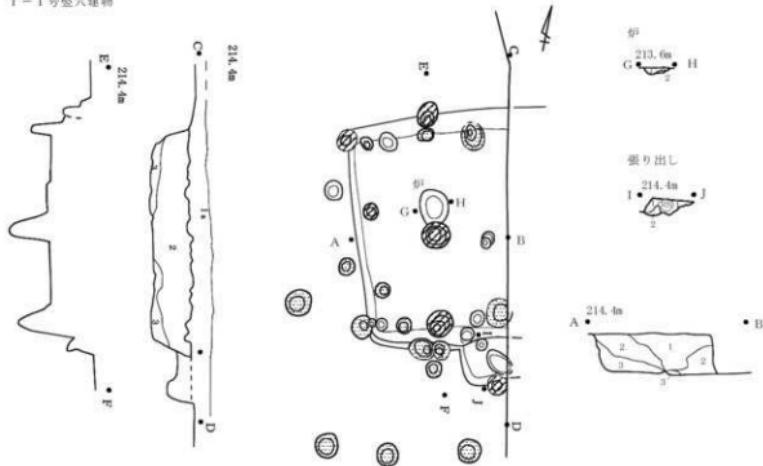
(単位: m)

| 遺構名 | 断面形態 | 規模 | | | 時期 | 備考 |
|-----|------|-------|-------|------|------|-----------------------------|
| | | 長さ | 幅 | 深さ | | |
| M-1 | 不明 | <55.0 | (2.4) | <1.2 | 中世 | 楕下城の外堀。一部のみ確認。 |
| M-2 | 箱状 | <80.0 | 3.2 | <2.0 | 中世 | 楕下城の外堀に接続する可能性の有る堀。南側にピット群。 |
| M-3 | 箱状 | <5.0 | 0.5 | 0.3 | 中世以降 | 耕作開闢土坑 |
| M-4 | 箱状 | 5.8 | 0.5 | 0.2 | 中世以降 | 耕作開闢土坑 |
| M-5 | 箱状 | <2.4 | 0.4 | 0.3 | 中世以降 | 耕作開闢土坑 |
| M-6 | 箱状 | <4.4 | 0.5 | 0.3 | 中世以降 | 耕作開闢土坑 |
| M-7 | 箱状 | <4.6 | 0.8 | 0.2 | 中世以降 | 耕作開闢土坑。M-2号堀と重複。 |

< >は残存値

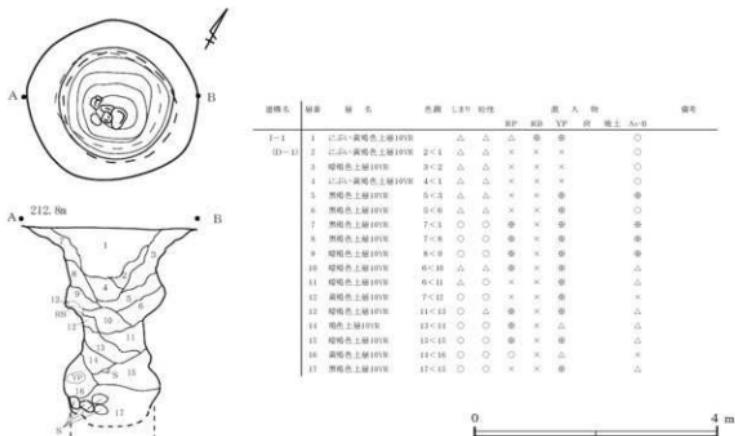
第6表 中世遺構観察表

T-1号竖穴建物



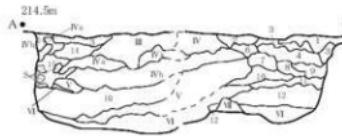
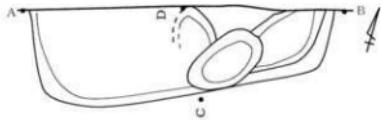
| 遺構名 | 層番 | 層名 | 色調 | L | W | 性状 | 埋入物 | R | H | 地土 | 備考 |
|------|----|-----------|-----|-----|---|----|-----|----|----|----|----|
| | | | | | | | | RP | RD | YP | |
| T-1 | 1 | 褐褐色土層10cm | | | | △ | ○ | △ | × | △ | |
| | 2 | 褐褐色土層10cm | 1<2 | △ | ○ | △ | ○ | △ | ○ | ○ | |
| | 3 | 褐色土層10cm | 3<2 | △ | ○ | △ | ○ | ○ | × | ○ | |
| G | 1 | 褐褐色土層10cm | | | | △ | ○ | △ | ○ | ○ | |
| | 2 | 黒褐色土層10cm | 2<1 | △ | ○ | × | × | × | △ | ● | |
| | 3 | 褐褐色土層10cm | | | | △ | ○ | △ | ○ | △ | |
| 側面剖面 | 2 | 褐褐色土層10cm | | 1<2 | △ | ○ | △ | ● | ● | ● | |

T-1号井戸 (D-1)

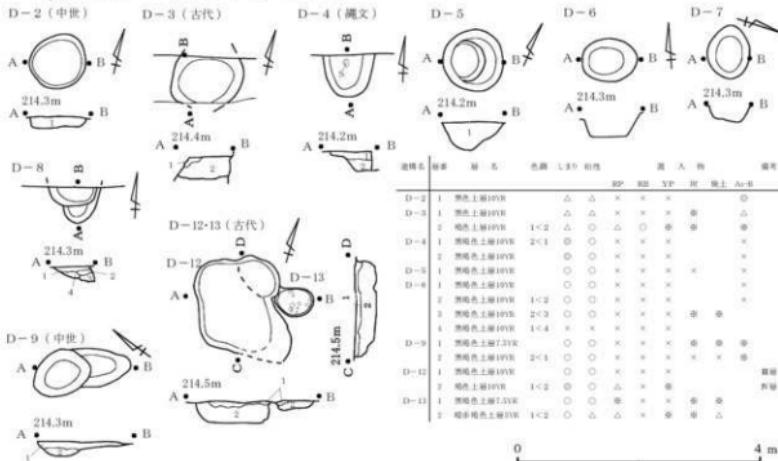


第63図 T-1号竖穴建物址・T-1号井戸実測図

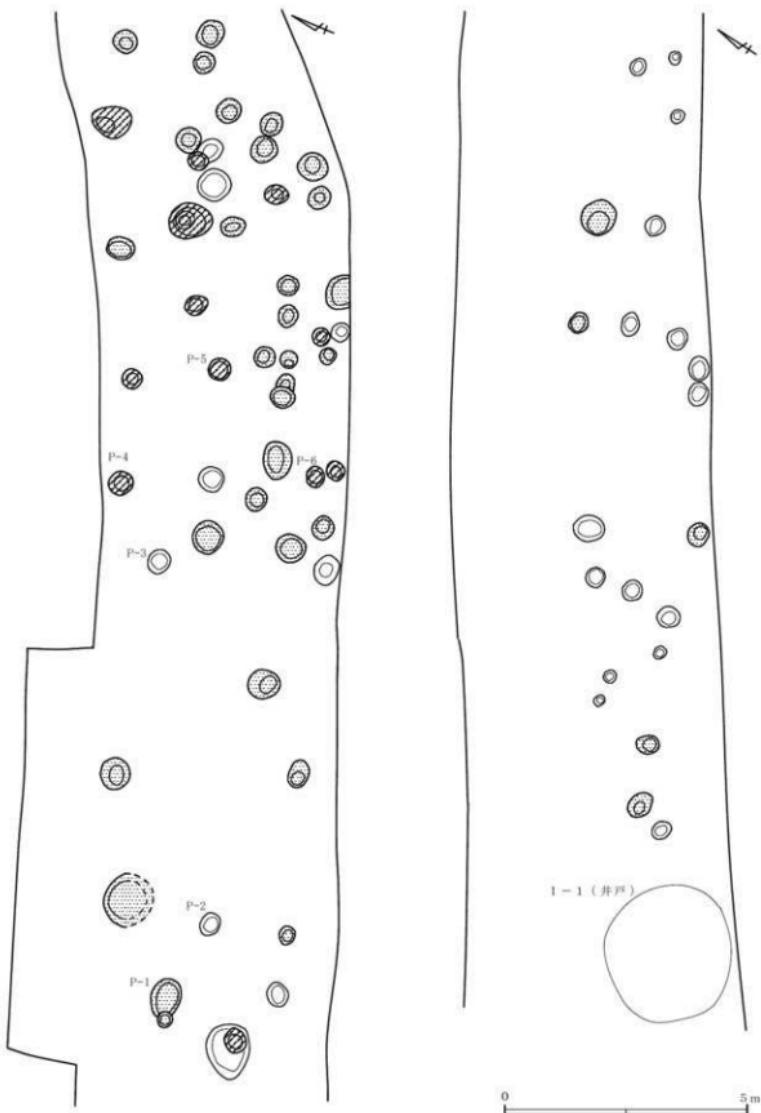
D-10号地下式土坑



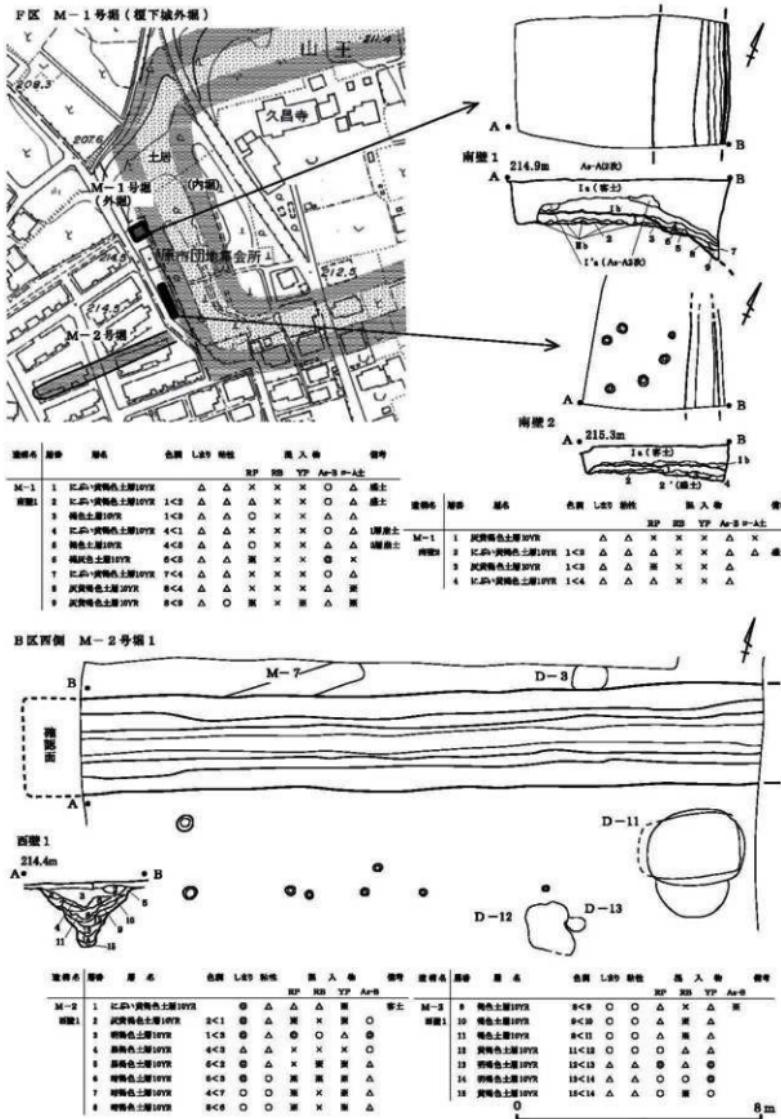
| 土壤名 | 剖面 | 层名 | 色調 | L值 | K值 | 物理性 | 腐殖物 | | | 地質 |
|------|----|--------------|-------|----|----|-----|-----|----|----|----|
| | | | | | | | RF | RH | YP | |
| D-10 | | 1 灰褐色土层10YR | ○ | ○ | ● | ● | ○ | △ | ● | ○ |
| | | 2 黑褐色土层10YR | 2<3 | ○ | × | × | ● | ● | ● | ○ |
| | | 3 灰褐色土层10YR | 2<3 | ○ | ○ | ● | × | ● | ● | ○ |
| | | 4 灰褐色土层10YR | 4<3 | ○ | ○ | ● | × | ● | ● | ○ |
| | | 5 黄褐色土层10YR | 4<3 | ○ | ○ | ● | × | ● | ● | ○ |
| | | 6 黑褐色土层10YR | 2<3 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | | 7 黄褐色土层10YR | 2<7 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | | 8 黑褐色土层10YR | 8<7 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | | 9 灰褐色土层10YR | 5<9 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | | 10 黑褐色土层10YR | 8<7 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | | 11 灰褐色土层10YR | 11<10 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | | 12 黑褐色土层10YR | 11<12 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | | 13 灰褐色土层10YR | 9<11 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | | 14 灰褐色土层10YR | 9<11 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | | 15 黑褐色土层10YR | 11<15 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | | 16 黑褐色土层10YR | 8<19 | ○ | ○ | △ | ● | ● | ● | ○ |
| | | 17 黄褐色土层10YR | 10<17 | ○ | ○ | △ | ● | ● | ● | ○ |
| | | 18 黑褐色土层10YR | 10<17 | △ | ○ | △ | ● | ● | ● | ○ |



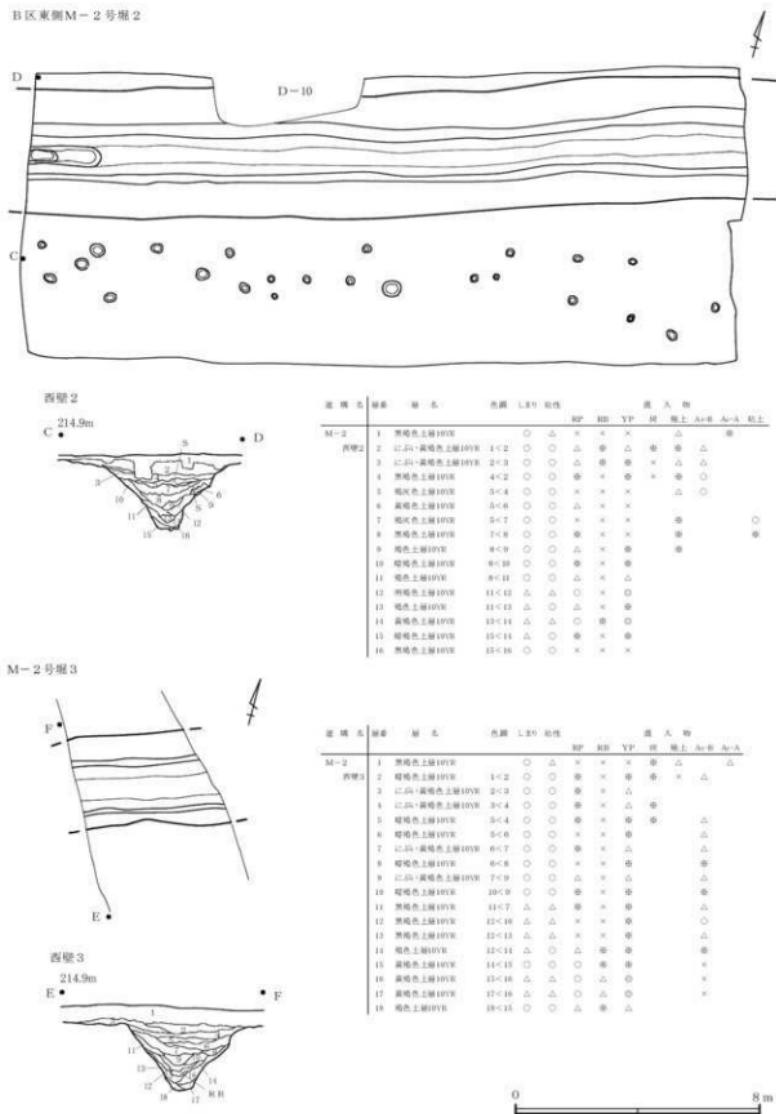
第64図 地下式土坑・土坑実測図



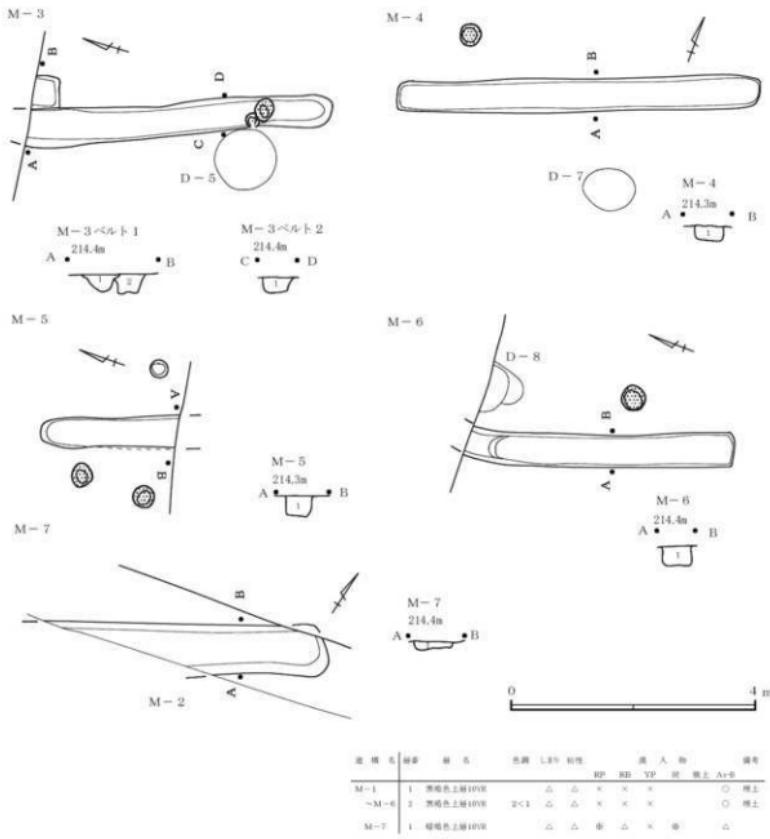
第65図 E区ピット群実測図



第66図 M-1号・M-2号西溝実測図



第67図 M-2号中央・M-2号東溝実測図



I-1号井戸出土遺物



第68図 溝穴測図・I-1号井戸出土遺物実測図

VI 成果と問題点

清水遺跡の調査は6次にわたって実施された。ここでは、今までに実施された調査を含め各時代毎に総括する。なお、清水遺跡の性格については、一部、既刊の報告書及び『安中市史』で触れられているので参照願いたい。

縄文時代

縄文時代では、前期の閑山Ⅱ式～有尾・黒浜式期の集落址が確認された。集落址は埋没谷の西側で、狭い範囲で展開しているが、他時期の遺構については、少なく、活動は低調である。本遺跡の土器群は、閑山Ⅱ式に神ノ木式が共存しており、次に続く段階では、南関東系の黒浜式は少なく、長野県及び群馬県に分布する有尾式が主体となる傾向が認められた。また、石器群についても、同時期の石器群とほぼ同様で、A類石器は少なく、B類石器が主体を占める傾向が認められた。このことについては、土器群の様相の点で、次第に地域の独自性が発現したことを示し、石器群の内容の点で内陸地域の自然環境に適応した植物質食糧資源に依存した生業活動へと変化したことが指摘されている（大工原・閑根1991）。

本遺跡に続く段階の遺跡は、遺跡の西に榎木畑遺跡が存在し、ここでは、前期末葉（諸磯b式～十三菩提式）の集落址が確認されている。市内における前期の遺跡は、碓氷川右岸の中野谷地区に集中し、遺跡群を形成することが明らかとなっている。中野谷地区とは異なる地域でも小規模の集落が形成されている点で、本遺跡の存在は集落構造を検討する上で重要な意味をもつものと考えられる。

古墳時代終末期（律令期）～平安時代

埋没谷を挟んだ西側（I・III・IV区）と南側（II・VI区）の2カ所で集落址が確認された。集落は広範囲の中に住居址が点在する構造を示し、遺構間の重複及び拡張も少なく、短時間に形成されたものと推定される。集落の中心となるのは、I期とII期であり、集落に継続性が認められる。しかし、III期との間には時間的な断続がみられ、規模が縮小する。原市地区は、古代碓氷郡の「野後郷」と推定され、清水遺跡周辺には東山道のルートが存在する地域であり、I期の集落は、地方行政区画制度（評制）の初期段階に形成された東山道ルート付近に存在する遺跡として位置づけられる。また、II期には、官衙的性格の強い掘立柱建物群で構成された鍛冶ヶ嶺遺跡、鍛冶集落である嶺・下原遺跡、集落である榎木畑遺跡等が存在する。清水遺跡の集落もI期と同様、関連性が認められる。III期の集落は、規模が縮小するが、清水遺跡のVI区で住居址が確認されている。9世紀後半以降、集落は断続し、衰退する。

I期に先行する集落では、古墳時代後期の集落、古墳群である杉名薬師遺跡、高橋遺跡等がある。このように、清水遺跡を含む原市地区は、古墳時代から続く奈良時代までの間の伝統的集落が存在する地域として位置づけられる。

出土遺物では、住居址から満巻き状の暗文土器、刻畫土器、墨書き土器の文字資料が出土した。特に「井」と刻畫された土師器は、上野国分僧寺・尼寺中間遺跡等で出土しており、道教の呪号である九字符号を略した記号とみられ、祭祀に用られたものと推測されている（高島英之他1992）。

中世

中世では、東日本では類例のない土器製作に関わる工房址と桜下城関連遺構に分けられる。工房址では、窯体をはじめとする竪穴状遺構、掘立柱建物址、柱穴列、井戸といった施設と粘土採掘坑があり、一連の製作が遺跡内で完結していたことが窺えられる。主な製作土器は、II区では瓦質陶器（内耳土鍋等）、V区では土師質土器（皿）である。これらの遺構は出土土器の時期により16世紀代に帰属される。本報告では、土器群の詳細な分析はできなかったが、窯体一括遺物として、土器製作技術及び土器編年、中世上器の生産と流通を検討する上で貴重な資料となった。この点については今後別の機会で報告したい。

桜下城関連遺構では、VI区で外堀を確認し、山崎氏が指摘した繩張りを検証することができた。また、発掘調査では西側に新たな堀の存在が明らかとなった。この堀の性格は不明だが、桜下城に付随する遺構である可能性が高い。さらに桜下城の西側（城外）には竪穴建物を中心とする遺構群が存在することも明らかとなった。これらの遺構群の時期については、遺物が少なく判然としないが、遺構の性格から判断して、桜下城が機能した時期と同時期のものと推定される。

（井上慎也）

参考文献

- 山崎 一 1978 『群馬県古墳墓址の研究』下巻
群馬県教育委員会 1988 『群馬県の中世城館跡』
木津博明 1989 『中近世土器の基礎研究』 V
千田茂雄・大工原 豊 1990 『桜木畠遺跡』安中市教育委員会
千田茂雄 1991 『地尻遺跡・地尻Ⅱ遺跡』安中市教育委員会
木津博明・高島英之他 1992 『上野国分僧寺・尼寺中間地域（8）』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
千田茂雄 1995 『安中市清水遺跡』『群馬文化』第244号 群馬県地域文化協議会
長井正欣 1996 『清水I遺跡』原市第一県営住宅遺跡調査会
大江 正行他 1996 『高崎市史』資料編3 中世 I 高崎市
長井正欣他 1997 『清水Ⅲ遺跡・清水IV遺跡』原市第一県営住宅遺跡調査会
清水 豊編 2000 『第6回特別展示図録 鍋について考える』かみつけの里博物館
井上慎也 2001 『城館址・遺跡』『安中市史』第4卷原始古代中世資料編
千田茂雄・清水 豊 2001 『清水遺跡II区』『安中市史』第4卷原始古代中世資料編
大工原 豊・関根慎二・外山政子・千田茂雄・飯田陽一・井上慎也・清水 豊他 2001 『安中市史』第4卷 原始古代中世資料編
大工原 豊・右島和夫・関口功一他 2003 『安中市史』第2卷通史編
千田茂雄 2004 『古屋地区遺跡群（高橋遺跡）』安中市教育委員会
井上慎也・大工原 豊・若狭 敏・外山政子 2006 『杉名茶師遺跡』安中市埋蔵文化財発掘調査団

VII 自然科学分析

株式会社古環境研究所

1 清水VI遺跡の火山灰分析

1.はじめに

群馬県域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な土層や遺構が検出された清水VI遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、土層や遺構の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、E区K-5グリッド北壁、B区M-2号堀西壁1、B区M-2号堀西壁2の3地点である。

2. 土層層序

(1) E区K-5グリッド北壁

E区K-5グリッド北壁では、下位より褐色土（層厚14cm以上）、暗灰褐色土（層厚17cm）、黒灰褐色土（層厚11cm）、黄灰色軽石層（層厚3cm、軽石の最大径30mm、石質岩片の最大径4mm）、黄灰色砂質土（層厚16cm）、若干灰色がかった白色軽石混じり暗灰色砂質土（層厚36cm、軽石の最大径14mm）が認められる（図1）。これらのうち、最上位の土層中に含まれている若干灰色がかった白色軽石は、その岩相から1783（天明3）年に浅間火山から噴出した浅間A軽石（As-A、荒牧、1968、新井、1979）に由来すると考えられる。

(2) B区M-2号堀西壁1

B区M-2号堀西壁1では、堀の覆土の良好な断面を観察することができた（図2）。覆土は、下位より黄色軽石に富む暗灰色砂質土（層厚15cm、軽石の最大径53mm、15層）、黄色軽石に富む灰褐色砂質土（層厚16cm、軽石の最大径30mm、14層）、褐色砂質土ブロック混じりで黄色軽石に富む灰褐色土（層厚27cm、軽石の最大径22mm、13層）、黄色軽石に富む灰褐色土（層厚15cm、軽石の最大径17mm、12層）、褐色砂質火山灰ブロック混じり灰褐色土（層厚11cm、11層）、黄色軽石を多く含む灰褐色土（層厚12cm、軽石の最大径22mm、10層）、黄色軽石を多く含む灰褐色土（層厚10cm、軽石の最大径11mm、9層）、暗灰褐色土（層厚29cm、8層）、黄色軽石混じり暗灰褐色土（層厚16cm、軽石の最大径7mm、7層）、暗灰褐色土（層厚21cm、6層）、暗灰褐色土（層厚28cm、5層）、黒灰褐色土（層厚18cm、4層）、褐色土ブロックや黄色軽石を含む灰褐色土（層厚58cm、軽石の最大径19mm、3層）、暗灰褐色土（層厚21cm、2層）、褐色土ブロック混じり灰褐色土（層厚15cm、1層）からなる。

(3) B区M-2号堀西壁2

B区M-2号堀西壁2においても、堀の覆土の良好な断面を観察することができた(図3)。ここで覆土は、下位より黒褐色土(層厚8cm, 16層)、黄色軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚15cm, 軽石の最大径21mm, 15層)、黄色軽石層(層厚21cm, 軽石の最大径41mm, 14層)、黄色軽石混じり灰褐色土(層厚16cm, 軽石の最大径21mm, 13層)、黄色軽石に富む黄灰褐色土(層厚24cm, 軽石の最大径21mm, 12層)、黄色軽石混じり灰褐色土(層厚23cm, 軽石の最大径27mm, 11層)、黄色軽石混じり灰褐色土(層厚12cm, 軽石の最大径13mm, 10層)、褐色砂質火山灰層ブロック混じり灰褐色土(層厚22cm, 9層)、暗灰褐色土(層厚25cm, 8層)、灰褐色土(層厚27cm, 7層)、灰褐色土(層厚7cm, 6層)、若干色調が暗い灰褐色土(層厚11cm, 5層)、暗灰褐色土(層厚21cm, 4層)、褐色土ブロック混じり暗灰褐色土(層厚13cm, 3層)、黄色軽石や褐色砂質火山灰層ブロック混じり暗灰褐色土(層厚48cm, 軽石の最大径23mm, 2層)、白色軽石混じり道路盛土(層厚13cm, 軽石の最大径7mm, 1層)からなる。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

示標テフラの降灰層準を把握するために、上述3地点において採取された試料のうち、24点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。E区K-5グリッド北壁では、試料7から試料3にかけて、スポンジ状に比較的よく発泡した灰白色軽石(最大径5.1mm)が含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や單斜輝石が認められる。試料5に、比較的多くの軽石が含まれていることから、ここでは試料5付近にこの軽石で特徴づけられるテフラの降灰層準があると推定される。また試料1のテフラ層には、比較的よく発泡した淡褐色軽石(最大径6.1mm)がとくに多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や單斜輝石が認められる。

B区M-2号堀西壁1では、試料15から試料13にかけて、スポンジ状または纖維束状にとくによく発泡した黄白色軽石(最大径16.1mm)が含まれている。この軽石は、土層断面において、黄色を呈する軽石として認められたものである。この軽石の班晶には、斜方輝石や單斜輝石が認められる。またいずれの試料からも、比較的よく発泡した淡褐色軽石(最大径9.2mm)が検出された。この軽石の班晶には、斜方輝石や單斜輝石が認められる。試料5や試料3に多く含まれているものの、最下位の試料にも含まれていることから、実際この軽石で特徴づけられるテフラの降灰層準は、溝の基盤の土層中にあるものと思われる。

B区M-2号堀西壁2では、試料16から試料11にかけて、スポンジ状または纖維束状にとくによく発泡した黄白色軽石(最大径8.7mm)が含まれている。この軽石は、土層断面において、黄色を呈す

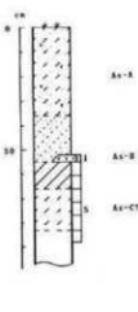


図1 B区E-5グリッド北壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

■ 砂岩
■ 黒灰褐色土
■ 暗灰褐色土
■ 黄灰褐色土
■ 黄褐色土
■ 黑色土
■ 土

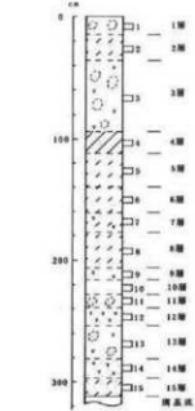


図2 B区E2号縦貫壁1の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

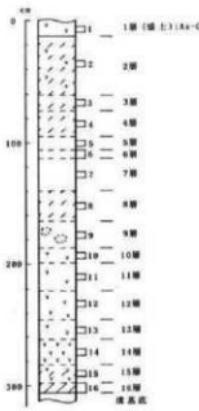


図3 B区E2号縦貫壁2の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

表1 テフラ検出分析結果

| 地点 | 試料 | 鉄石の量 | 鉄石の色調 | 鉄石の最大粒径 |
|--------|----|------|-------|-----------|
| E区 | 1 | +++ | 黒暗 | 6.1 |
| C-D'付近 | 3 | + | 黒暗 | 3.8 |
| 北壁 | 3 | ++ | 黒暗 | 5.1 |
| | 7 | + | 黒暗 | 4.1 |
| B区 | 1 | ++ | 黒暗 | 4.1 |
| 蛇引溝 | 3 | +++ | 黒暗 | 8.2 |
| 西壁1 | 3 | +++ | 黒暗 | 5.2 |
| | 4 | ++ | 黒暗 | 5.0 |
| T | 7 | ++ | 黒暗 | 5.2 |
| | 8 | ++ | 黒暗 | 6.1 |
| | 9 | + | 黒暗 | 5.1 |
| | 11 | + | 黒暗 | 4.0 |
| | 13 | + | 黒暗、黄白 | 3.8, 6.0 |
| | 14 | + | 黒>黒暗 | 4.3, 4.4 |
| | 15 | ++ | 黒白>黒暗 | 10.1, 4.3 |
| B区 | 1 | ++ | 黒暗>白 | 6.2, 4.7 |
| 蛇引溝 | 3 | ++ | 黒暗 | 4.2 |
| 西壁2 | 3 | ++ | 黒暗 | 5.0 |
| | T | +++ | 黒暗 | 5.1 |
| | 8 | ++ | 黒暗 | 5.1 |
| | 11 | ++ | 黒暗、黒白 | 4.8, 5.7 |
| | 13 | ++ | 黒暗、黒白 | 5.1, 5.1 |
| | 15 | ++ | 黒暗、黄白 | 4.3, 5.3 |
| | 16 | ++ | 黒暗>黄白 | 4.7, 5.8 |

+++：多くに多い。++：多い。+：中程度。+：少ない。-：認められない。最大粒径の単位はmm。

表2 鉄鉱石測定結果

| 地点 | 試料 | 火成ガス (t) | 酸化物 | 鉄鉱石 (t) |
|--------|----|-------------|--------|-------------|
| B区縦貫壁2 | 16 | 1,329±1,333 | 680±98 | 1,707±1,710 |

鉄鉱石の測定は、強度一定型鉄鉱石測定法(新井, 1972, 1993)による。
1:鉄鉱石, cpm: 単位操作。

る軽石として認められたものである。この軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。またいずれの試料からも、比較的よく発泡した淡褐色軽石（最大径8.1mm）が検出された。この軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。さらに試料1には、スponジ状によく発泡し光沢をもつ白色軽石が少量含まれている。この軽石の班晶にも、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

分析により検出されたテフラ粒子のち、とくに溝状遺構に関係すると考えられる淡褐色軽石の起源を明らかにするために、B区M-2号堀西壁2の試料16（16層）について、温度一定型屈折率測定法（新井、1972,1993）により、テフラ粒子の屈折率測定を試みた。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。B区M-2号堀西壁2の試料16に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.526-1.533である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれており、斜方輝石の屈折率（γ）は1.707-1.710である。

5. 考察

屈折率測定の対象となった淡褐色軽石については、その岩相、火山ガラスの屈折率、班晶鉱物の組み合わせ、さらに斜方輝石の屈折率などから、1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B、荒牧、1968、新井、1979）に由来すると考えられる。E区K-5グリッド北壁の試料1の軽石層についても、層相や含まれる軽石の特徴から、As-Bに同定される。またB区西壁2の1層に含まれるスponジ状によく発泡し光沢をもつ白色軽石については、その層位や岩相などから、As-Aに由来すると考えられる。したがって、M2号溝の層位は、As-Bより上位で、As-Aより下位にあると推定される。

またスponジ状によく発泡した灰白色軽石については、岩相から4世紀中葉¹に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C、荒牧、1968、新井、1979）に由来すると考えられる。したがって、E区K-5グリッド北壁では、産状から試料5付近にAs-Cの降灰層準のある可能性が指摘される。ただし実際には、この土層中により新しい土器が混在していることから、本来の降灰層準は、何らかの攪乱や削剥を受けてなくなっている可能性が高い。さらに土層断面において黄色軽石として、またテフラ検出分析により黄白色軽石として認められた軽石については、その特徴から約1.3~1.4万年前²に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP、新井、1962、町田・新井、1992）に由来すると考えられる。

6. 小結

清水VI遺跡において、地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間板鼻黄色軽石（As-YP、約1.3~1.4万年前²）、浅間C軽石（As-C、4世紀中葉¹）、浅間Bテフラ（As-B、1108年）、浅間A軽石（As-A、1783年）などに由来するテフラ粒子を検出することができた。そして、発掘調査で検出されたM-2号堀の層位は、As-Bより上位でAs-Aより下位にあると推定された。

* 1 現在では4世紀を遡るとする説が有力になっているようである（たとえば、若狭、2000）。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「3世紀後半」あるいは「3世紀終末」と考えておくのが妥当なのかも知れないが、土器をもとにした考古学的な年代観の変更については、考古学研究者による明確な記載を待ちたい。

* 2 放射性炭素 (^{14}C) 年代。

参考文献

- 新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要、自然科学編、10、p.1-79。
- 新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究、11、p.254-269。
- 新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル、no.53.p.41-52。
- 新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」、p.138-148。
- 荒牧重雄（1968）浅間火山の地質。地図研専報、no.45.65p。
- 町田 洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス。東京大学出版会、276p。
- 若狭 徹（2000）群馬の弥生土器が終わるとき、かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」、p.41-43。

2 清水VII遺跡における植物珪酸体分析

1.はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山, 2000）。

2. 試料

分析試料は、E区K-5グリッド北壁から採取された2点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原, 1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに直徑約40 μmのガラスピーブを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42kHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20 μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行つた。計数は、ガラスピーブ個数が400以上になるまで行つた。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピーブ個数に、計数された植物珪酸体とガラスピーブ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5} g ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。ヒエ属（ヒエ）の換算係数は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネササ節は0.48、クマザサ属（シマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

（1）分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

ヒエ属型、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、ウシクサ族B（大型）

[イネ科—タケ亜科]

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

[イネ科—その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

(2) 植物珪酸体の検出状況

As-B直下層（試料1）およびその下位のAs-C?混層（試料2）では、ウシクサ族Aやネザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型、ヨシ属、ススキ属なども検出された。また、試料1ではヒエ属型も少量検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌヒエなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別することは困難である（杉山ほか、1988）。おもな分類群の推定生産量によると、ネザサ節型が優勢であることが分かる。

5. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

浅間Bテフラ（As-B、1108年）直下層およびその下位層の堆積当時は、メダケ属ネザサ節を主体としてススキ属やチガヤ属、キビ族なども見られる草原的な環境であったと考えられ、As-B直下層ではヒエ属（ヒエが含まれる）が栽培されていた可能性も認められる。また、周辺にはヨシ属が生育するような湿地的なところも分布していたと考えられる。

参考文献

- 杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告、第31号、p.70-83.
杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—。考古学と自然科学、20、p.81-92.
杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）。考古学と植物学。同成社。p.189-213.
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学、9、p.15-29.
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学、17、p.73-85.

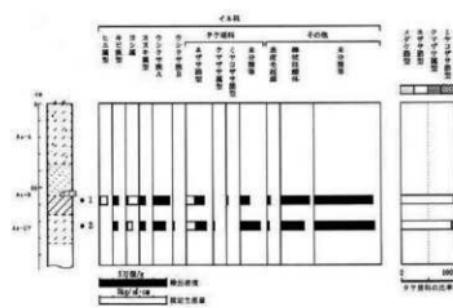
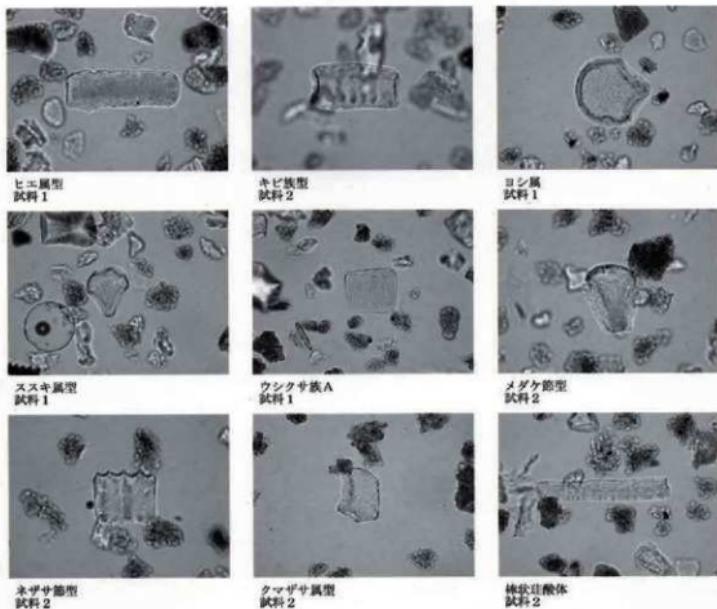


図3 滅木羽蟲跡、玉藻ヶ原クリップ装置における植物組織体分析結果

| 学名 | 種名 | 試験用 | 日本名 | |
|--|---------------------------------------|--------------------|------|------|
| | | | 英語名 | 学名 |
| <i>イヌヒヨウ</i> | <i>Canis lupus</i> | <i>Canis lupus</i> | Wolf | |
| ヒヨウ型 | <i>Canis lupus</i> type | | | 7 |
| ヒヨウ型 | <i>Canis lupus</i> type | | | 41 |
| ヨシノ型 | <i>Canis lupus</i> (yoshino) | | | 14 |
| スヌード型 | <i>Canis lupus</i> (snood) | | | 24 |
| アカヒヨウ | <i>Canis lupus</i> (red) | | | 124 |
| ウサギ耳型 | <i>Canis lupus</i> (hare ear) | | | 32 |
| タケモ型 | <i>Canis lupus</i> (takemomo) | | | 1 |
| ネザウモ型 | <i>Canis lupus</i> (nezawomo) | | | 131 |
| タマヤマ型 | <i>Canis lupus</i> (tama-yama) | | | 14 |
| ミツバチ型 | <i>Canis lupus</i> (miyabachi) | | | 7 |
| ナガヒヨウ | <i>Canis lupus</i> (long) | | | 63 |
| その他イヌ型 | Others | | | 146 |
| 赤毛ヒヨウ | <i>Canis lupus</i> (red hair) | | | 21 |
| 黒毛ヒヨウ | <i>Canis lupus</i> (black) | | | 214 |
| 白毛ヒヨウ | <i>Canis lupus</i> (white) | | | 454 |
| 黒毛黒脚 | <i>Canis lupus</i> (black) | | | 296 |
| 黒毛黒脚黒耳 | <i>Canis lupus</i> (black) | | | 296 |
| おもな毛色の他の性別・年齢 (単位: kg/m ²) | | | | |
| リジン | <i>Phascolothrix</i> type | | | 0.58 |
| リジン | <i>Phascolothrix</i> type | | | 0.47 |
| スヌード型 | <i>Macrotis</i> type | | | 0.43 |
| ネザウモ型 | <i>Phascolothrix</i> soft. (nezawomo) | | | 0.63 |
| タマヤマ型 | <i>Sasa</i> (tama-yama) | | | 0.62 |
| ミツバチ型 | <i>Sasa</i> (miyabachi) | | | 0.63 |
| タケモ型の他の性別 (単位: kg/m ²) | | | | |
| メダラヒヨウ | <i>Phascolothrix</i> soft. (medara) | | | 0.57 |
| メダラヒヨウ | <i>Phascolothrix</i> soft. (medara) | | | 0.57 |
| タケモ型 | <i>Phascolothrix</i> soft. (takemomo) | | | 0.57 |
| タケモ型 | <i>Phascolothrix</i> soft. (takemomo) | | | 0.57 |
| タケモ型 | <i>Phascolothrix</i> soft. (takemomo) | | | 0.57 |
| タケモ型 | <i>Phascolothrix</i> soft. (takemomo) | | | 0.57 |



植物珪酸体(プラント・オパール)の顯微鏡写真

— 50 μm

| 標印番号 | 通稱名 | 区 | 解 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 高さ(cm) | 法量(cm) | | 成・整形特徴 | | 参考 | |
|----------|-----|-------|------|------|------|------|------|--------|--------|--------|----------|---------------------|------------------|------|
| | | | | | | | | | 裏存 | 外 | 裏存 | 外 | | |
| 14回 1 | H-1 | 床直 | 土陶器 | 环 | 12.0 | - | 3.6 | 普通 | ③褐色 | 口縁部・黒色 | 白色粒・黒色 | 口縁部～体部横断面、底部～底部切欠き。 | 底部で、 | |
| 2 | H-1 | 10+12 | 3+1 | 土陶器 | 环 | 10.2 | - | - | 普通 | 褐色 | 白色粒・角 | 口縁部・黒色 | 口縁部～体部横断面、底部切欠き。 | 底部で。 |
| 3 | H-1 | 竈 | 土陶器 | 环 | 11.4 | - | 4.1 | 普通 | 褐色 | 白色粒・黒色 | 白色粒・黒色 | 口縁部横断面、体部～底部切欠き。 | 底部で、 | |
| 4 | H-1 | 8 | 1 | 須吏器 | 蓋 | 17.8 | 6.8 | 3.4 | 通常 | 灰色 | 白色粒・黒色 | 白色粒・黒色 | 口縁部横断面、体部～底部切欠き。 | 底部で。 |
| 5 | H-1 | 16 | 床直 | 家吏器 | 裏 | 25.8 | - | - | 通常 | 黄色 | 白色粒・黒色 | 口縁部1/6 | 輪輪整形。 | |
| 6 | H-2 | 8 | 床直 | 剪文土器 | 环 | 11.8 | - | 3.9 | 普通 | 褐色 | 砂粒を多量に含む | 口縁部横断面、体部～底部切欠き。 | 口縁部横断面で後、 | |
| 7 | H-2 | 16 | 床直 | 家吏器 | 环 | 11.0 | 6.4 | 3.2 | 普通 | 灰色 | 砂粒を多量に含む | 砂粒を多く含む | 体部～底部切欠き。 | |
| 8 | H-2 | 11+8 | 2 | 剪文土器 | 环 | 13.0 | - | 3.2 | 普通 | 褐色 | 白色粒・黒色 | 口縁部横断面、体部～底部切欠き。 | 口縁部横断面で、底部切欠き。 | |
| 9 | H-2 | --柄 | 剪文土器 | 环 | 10.7 | 10.7 | 4.5 | 普通 | 褐色 | 白色粒・褐色 | 白色粒・褐色 | 口縁部横断面、体部～底部切欠き。 | 口縁部横断面で、底部切欠き。 | |
| 10 | H-2 | 9+6 | 1 | 須吏器 | 蓋 | 19.7 | - | - | 通常 | 灰色 | 白色粒・黒色 | 白色粒・黒色 | 輪輪整形、底部右回転割り。 | |
| 11 | H-2 | 10 | 3 | 須吏器 | 高台付环 | 15.4 | 10.2 | 4.5 | 通常 | 灰色 | 白色粒・黒色 | 白色粒・黒色 | 輪輪整形、底部右回転割り。 | |
| 12 | H-2 | 竈 | 土陶器 | 裏 | 14.4 | - | - | 普通 | 褐色 | 白色粒・黒色 | 白色粒・黒色 | 口縁部横断面で、輪輪整形。 | 口縁部横断面で、輪輪整形。 | |
| 13 | H-2 | | 土陶器 | 裏 | 22.6 | - | - | 普通 | 褐色 | 白色粒・褐色 | 白色粒・褐色 | 輪輪整形、輪輪整形。 | 輪輪整形で、輪部上位 | |
| 14 | H-2 | 竈 | 土陶器 | 裏 | 23.1 | - | - | 普通 | 明赤褐色 | 白色粒・角 | 口縁部・黒色 | 口縁部横断面で、輪輪整形。 | 口縁部横断面で、輪部上位 | |
| | | | | | | | | | 底石・黒色 | 底石・黒色 | 底石・黒色 | 底石・黒色 | 底石・黒色 | |

第7表 清水川遺跡 遺物観察表(1)

| 標本名 | 番号 | 通称名 | 区 | 解 | 種類 | 器種 | 法長(cm) | 口徑 底径 | 器高 | ①構成 | | ②色調 | 砂粒を含む る | 成・整形技術と実質 | | 内面 | |
|------|-----|-------|-----|-----|------|------|--------|----------|-------|----------|---------|--------------------|------------------------|------------------------|----|----|----|
| | | | | | | | | | | 骨部 | 骨部 | | | 骨部 | 骨部 | | |
| 14#4 | 15 | H-3 | 14 | 末直 | 土拂器 | 环 | 11.6 | — | 3.0 | 普通 | 褐色 | 白色粒・黒色粒 | 口縫部破壊で、外 部に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 | |
| 16 | H-3 | 8 | 3 | 土拂器 | 环 | 10.9 | — | 3.2 | 普通 | 褐色 | 白色粒 | 欠損 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 | |
| 17 | H-3 | 16+2 | 3+2 | 土拂器 | 环 | 10.4 | — | 3.2 | 普通 | 明赤褐色～褐色 | 白色粒 | 口縫部破壊で、体 部～底部 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 | |
| 18 | H-3 | 10+16 | 1+2 | 土拂器 | 环 | 11.3 | — | 4.0 | 普通 | 明赤褐色 | 白色粒・黒色粒 | 口縫部破壊で、体 部～底部 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 | |
| 19 | H-3 | 13 | 3 | 土拂器 | 环 | 10.5 | — | — | 普通 | 稍～明赤褐色 | 白色粒 | 口縫部破壊で、体 部～底部 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 | |
| 20 | H-3 | 電 | 土拂器 | 環 | 21.0 | — | — | 普通 | 暗褐色 | 白色粒・片岩・礫 | 口縫部～岩・礫 | 口縫部破壊で、胸部 上位に凹部 | 口縫部破壊で、胸部 上位に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 | |
| 15#4 | 1 | H-4 | 末直 | 土拂器 | 环 | 10.4 | — | 3.3 | 普通 | 純～褐色 | 白色粒・角 | 口縫部～岩 | 口縫部破壊で、体 部～底部 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 |
| | 2 | H-4 | 電 | 土拂器 | 環 | 22.8 | 7.1 | 33.2 | 普通 | 褐色 | 白色粒 | 口縫部 | 口縫部破壊で、胸部 上位に凹部 | 口縫部破壊で、胸部 上位に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 |
| 3 | H-4 | 6+1 | 3 | 土拂器 | 環 | 18.3 | — | — | 普通 | 明赤褐色 | 白色粒 | 口縫部～岩 | 口縫部破壊で、体 部～底部 | 口縫部破壊で、胸部 上位に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 |
| 4 | H-4 | 電 | 土拂器 | 環 | 22.4 | — | — | 普通 | 明赤褐色 | 白色粒・片岩 | 口縫部～岩 | 口縫部破壊で、胸部 上位に凹部 | 口縫部破壊で、胸部 上位に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 | |
| 5 | H-4 | 電 | 土拂器 | 環 | 21.7 | — | — | 普通 | 明赤褐色 | 褐色粒・片岩 | 口縫部～岩 | 口縫部破壊で、胸部 上位に凹部 | 口縫部破壊で、胸部 上位に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 | |
| 6 | H-5 | 電 | 須拂器 | 蓋 | 17.6 | 4.5 | 3.9 | 還元焰 | 灰黃色 | 白色粒 | 口縫部～岩 | 口縫部～岩 | 口縫部破壊で、天井部右側に 輪廓彫形。 | 口縫部破壊で、天井部右側に 輪廓彫形。 | 骨部 | 骨部 | 骨部 |
| 7 | H-5 | 10 | 末直 | 須拂器 | 环 | 13.9 | 8.1 | 4.0 | 還元焰 | 灰色 | 白色粒 | 口縫部～岩 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 |
| 8 | H-5 | 10+7 | 2+1 | 須拂器 | 环 | 13.7 | 7.8 | 4.2 | 還元焰 | 灰白～灰黃色 | 白色粒 | 口縫部～岩 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 |
| 9 | H-5 | 電 | 須拂器 | 环 | 13.6 | — | 2.9 | 還元焰 | 灰白～灰色 | 白色粒 | 口縫部～岩 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 | |
| 10 | H-5 | 電 | 須拂器 | 極 | — | 8.4 | — | — | 還元焰 | 灰黃色 | 白色粒・褐色 | 口縫部～岩 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 口縫部破壊で、底 部に凹部 | 骨部 | 骨部 | 骨部 |

第8卷 清水II遺跡 調査報告(2)

第9卷 清水川遺跡調査報告(3)

| 標印番号 | 通稱名 | 区 | 解 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 法高(cm) | 成・整形技術の特徴 | | | 参考 |
|------|------|-----|----|-----|-----|------|------|--------|-----------|--------|--------|-------------------------------|
| | | | | | | | | | (1) 埋成 | (2) 色調 | (3) 衛土 | |
| 16回 | H-8 | | 床直 | 土師器 | 壺 | 11.4 | — | 4.5 | 普通 | 褐色 | 白色粒・黒 | 口縁部横擴で、底部窄～体部横擴で、底部で、底部で。 |
| 16 | H-9 | 6 | 2 | 須恵器 | 壺 | — | — | 4.3 | 3.0 | 還元焰灰色 | 白色粒を多 | 口縁部横擴で、底部窄～体部横擴で、底部で。 |
| 17 | H-9 | 6 | 2 | 須恵器 | 高台付 | 17.2 | 12.6 | 4.5 | 還元焰 | 黄色 | 白色粒 | 側面斜削り、天井部右回転窓 |
| 18 | H-9 | 13 | 2 | 須恵器 | 壺 | 13.2 | 7.9 | 3.4 | 還元焰 | 灰色 | 白色粒・黒 | 側面斜削り、底部右回転窓 |
| 19 | H-9 | 竈 | | 土師器 | 壺 | 20.0 | — | 17.0 | 普通 | 明赤褐色 | 白色粒を多 | 口縁部横擴で、胸部上位～中位斜削り、胸部上位～中位斜削り。 |
| 17回 | H-10 | 11 | 3 | 須恵器 | 壺 | — | — | 3.7 | — | 還元焰 | 白色 | 側面斜削り、天井部右回転窓 |
| 2 | H-10 | 10 | 床直 | 須恵器 | 壺 | 16.6 | 5.0 | 3.0 | 還元焰 | 灰色 | 白色粒・黒 | 側面斜削り、天井部右回転窓 |
| 3 | H-10 | 6 | 2 | 須恵器 | 壺 | 16.0 | — | — | 還元焰 | 黄色 | 白色粒 | 側面斜削り、天井部右回転窓 |
| 4 | H-10 | 12 | 1 | 須恵器 | 壺 | 13.8 | 8.0 | 4.4 | 還元焰 | 灰～灰黄色 | 白色粒・角 | 側面斜削り、底部右回転窓 |
| 5 | H-10 | 6 | 1 | 須恵器 | 壺 | 13.6 | — | 2.9 | 還元焰 | 灰色 | 白色粒 | 側面斜削り、底部右回転窓 |
| 6 | H-10 | 4 | 3 | 須恵器 | 壺 | 9.3 | 6.7 | 5.3 | 還元焰 | 灰白色 | 白色粒 | 側面斜削り、底部右回転窓 |
| 7 | H-10 | | | 須恵器 | 壺 | 11.9 | 6.6 | 3.9 | 還元焰 | 灰色 | 白色粒 | 側面斜削り、底部右回転窓 |
| 8 | H-10 | 10 | 2 | 須恵器 | 壺 | 13.0 | 8.8 | 4.4 | 還元焰 | 灰白色 | 白色粒 | 側面斜削り、底部右回転窓 |
| 9 | H-10 | P-3 | | 須恵器 | 壺 | 11.5 | 7.0 | 3.7 | 還元焰 | 褐色 | 白色粒 | 側面斜削り、底部右回転窓 |
| 10 | H-10 | 7 | 3 | 須恵器 | 壺 | 11.2 | 6.0 | 4.1 | 還元焰 | 灰白色 | 白色粒を多 | 側面斜削り、底部右回転窓 |

第10表 清水Ⅱ遺跡 遺物觀察表(4)

| 標誌番号 | 通称名 | 区 | 解 | 種類 | 器種 | 法長(cm) | 成・熟形枝技の特徴 | | 外面部右回転糸切 輪轂整形、底面部右回転糸切 輪轂整形、底面部右回転糸切 輪轂整形、底面部右回転糸切 輪轂整形 | 内面 切り。 | 備考 |
|------|---------|-----|-------|----|------|--------|-----------|----------------|---|-------------------|-------------------|
| | | | | | | | ①幼虫 | ②色調 | | | |
| 17回 | 11 H-10 | P-2 | 須恵器 | 环 | 12.6 | 7.0 | 3.6 | 透光端 灰色 | 器高 11.1 砂粒を含む 等に含む | 砂粒を多 く含む | 砂粒を含む 等に含む |
| 12 | H-10 | 12 | 3 須恵器 | 环 | 11.1 | 6.8 | 4.0 | 透光端 灰色 | 砂粒を含 む | 砂粒を含 む | 砂粒を含 む |
| 13 | H-10 | P-4 | 須恵器 | 环 | 11.4 | 7.4 | 5.5 | 透光端 灰色 | 砂粒を含 む | 砂粒を含 む | 砂粒を含 む |
| 14 | H-10 | 5 | 2 須恵器 | 槌 | — | 9.4 | — | 透光端 灰色 | 白色粒・黑 色粒 | 白色粒・黑 色粒 | 白色粒・黑 色粒 |
| 15 | H-10 | P-6 | 須恵器 | 槌 | — | 7.6 | — | 透光端 灰色 | 白色粒・黑 色粒 | 白色粒・黑 色粒 | 白色粒・黑 色粒 |
| 16 | H-10 | 3 | 3 土師器 | 黑 | 20.8 | — | — | 普通 | 白色 黑色 | 口縁部 ~角脚部上 部 | 口縁部 ~角脚部上 部 |
| 17 | H-10 | 13 | 2 須恵器 | 黑 | 26.0 | — | — | 透光端 黄灰色 | 白色粒 | 口縫部1/8 白色粒 | 口縫部1/8 白色粒 |
| 18 | 1D-17G | | 須恵器 | 蓋 | 10.9 | 2.0 | 3.4 | 透光端 灰色 | 白色粒 | 2/5 | 透光端 灰色 白色粒 |
| 19 | 1D-17G | | 須恵器 | 环 | 12.2 | 6.2 | 4.4 | 透光端 黄褐色~灰 色 | 白色粒・黑 色粒 | 4/5 | 透光端 黄褐色 白色粒 |
| 20 | 1D-17G | | 須恵器 | 环 | 12.5 | 7.8 | 4.5 | 透光端 灰色 | 白色粒 | 2/3 | 透光端 黄褐色 白色粒 |
| 21 | 1D-17G | | 須恵器 | 环 | 13.2 | 8.4 | 4.0 | 透光端 灰白~灰色 | 白色粒・黑 色粒 | 1/2 | 透光端 黄褐色 白色粒 |
| 22 | 1D-18G | | 須恵器 | 环 | 12.4 | 7.4 | 4.0 | 透光端 灰色 | 白色粒 | 1/3 | 透光端 黄褐色 白色粒 |
| 23 | 1D-17G | | 須恵器 | 槌 | 12.6 | 7.5 | 4.5 | 透光端 黄灰色 | 白色粒・黑 色粒 | 2/3 | 透光端 黄褐色 白色粒 |
| 24 | 1E-16G | | 須恵器 | 环 | 13.5 | 7.8 | 3.3 | 透光端 黄灰色 | 白色粒 | 1/2 | 透光端 黄褐色 白色粒 |

第11表 清水山遺跡 遺物観察表（5）

| 標題No | 番号 | 通称名 | 区 | 層 | 種類 | 器種 | 法長(cm) | 成・鑿形方法の特徴 | | | 参考 | |
|------|-----|------------------|-----------|-----|-----|--------|--------|-----------|--------------|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | | | | | | | | (1) 剥成 | (2) 刷毛 | (3) 表面 | | |
| 45四 | 1 | H-1 | 2道前 | 床直 | 土拂器 | 坪 | 11.6 | — | 3.7 | 普通 | 白色粒、黒色粒、角閃2/3 石、雲母含 | 口縁部削撫で、体部剥り 口縁部削撫で、体部剥撫で |
| 2 | H-1 | 10 | 床直 | 土拂器 | 坪 | 11.6 | — | 3.2 | 普通 | 白色粒、黒色粒、ほぼ完形 石、雲母含 | 口縁部削撫で、体部剥り 口縁部削撫で、体部剥撫で | |
| 3 | H-1 | 8 | 床直 | 土拂器 | 坪 | 11.2 | — | 3.3 | 普通 | 白色粒、白英2/3 石、雲母含 | 口縁部削撫で、体部剥り 口縁部削撫で、体部剥撫で | |
| 4 | H-1 | 13+17 | 中層 | 土拂器 | 坪 | 13.4 | — | — | 普通 | 白色粒、雲 石、雲母含 | 口縁部削撫で、体部剥り 口縁部削撫で、体部剥撫で | |
| 5 | H-1 | 19No.7 | 床直 | 土拂器 | 坪 | 11.3 | — | 3.7 | 普通 | 白色粒、角閃4/4 石、雲母含 | 口縁部削撫で、体部剥り 口縁部削撫で、体部剥撫で | |
| 6 | H-1 | 15×9ルト | 上層 | 土拂器 | 坪 | 11.8 | — | 4.2 | 普通 | 黄褐色 石、雲母含 | 口縁部削撫で、体部剥り 口縁部削撫で、体部剥撫で | |
| 7 | H-1 | 14No.3+15 | 床直 | 土拂器 | 坪 | 10.8 | — | 3.1 | 普通 | 白色粒、黒 色粒含 | 口縁部削撫で、体部剥り 口縁部削撫で、体部剥撫で | |
| 8 | H-1 | 11No.14 | 床直 | 須拂器 | 坪 | 9.5 | — | 2.7 | 還元焰 灰褐色 | 白色粒、光形 石、片岩含 | 口縁部削撫で、体部剥り 口縁部削撫で、体部剥撫で | |
| 9 | H-1 | 3 | 床直 | 須拂器 | 蓋 | (10.0) | — | 2.7 | 還元焰 灰褐色 | 白色粒、黒 色粒含 | 回転研磨で、上面を剥む剥 削、研磨で | |
| 10 | H-1 | 16+20 | 下層 | 土拂器 | 施剥造 | (7.4) | — | 6.1 | 普通 | 白色粒、黒 色粒含 | 口縁部削撫で、剥削剥り 口縁部削撫で、剥削剥撫で | |
| 11 | H-1 | 14 | 上層 | 土拂器 | 台付焼 | — | 9.4 | <4.5> | 普通 | 明褐色 石、片岩含 | 脚部剥り、剥削剥 削、研磨で | |
| 12 | H-1 | 18 | 床直 | 土拂器 | 大形坪 | 14.5 | — | 9.8 | 普通 | 白色粒、角閃2/3 石、片岩含 | 口縁部削撫で、体部剥り 口縁部削撫で、体部剥撫で | |
| 13 | H-1 | 9×8ルト | 床直 | 須拂器 | 焼 | — | — | — | 灰白色 石、片岩含 | 平行叩打 | 同上 | |
| 14 | H-1 | 3No.1+4+7 | 床直 | 土拂器 | 小形焼 | 14.0 | — | 14.6 | 普通 | 白色粒、黒 色粒含 | 口縁部削撫で、剥削剥り 口縁部削撫で、剥削剥撫で | |
| 15 | H-1 | 3No.1+3+ ~9ルト | 中層+ 下層 | 土拂器 | 小形焼 | 15.0 | — | 16.6 | 普通 | にぶい粒、に ふい赤褐色 石、片岩含 | 口縁部削撫で、剥削剥り 口縁部削撫で、剥削剥撫で | |

第12表 清V遺跡 遺物観察表（1）

| 標題No | 番号 | 通称名 | 区 | 層 | 種類 | 器種 | 法長(cm) | 口径 底径 高さ | 器底 | 成・整形技術の特徴 | | 内面 | 外面 | 備考 |
|------|-----|---|--|------------|------|--------|--------|----------------|----|---------------------------------|--------------------|-----------------------|-----------------------|-------------|
| | | | | | | | | | | ①形状 | ②色調 | | | |
| 45回 | 16 | H-1 | 56a2-17 ニ-2-10b ₁ 床直 2-11b2 | 土師器 | 焼 | 23.0 | — | 38.1 | 普通 | 灰褐色～に-ぶい白色粒、黑色 褐色 | 白色粒、黑色 7/8 | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 削部底盤擦で、削部底盤 |
| | 17 | H-1 | 10-18-20床直 10-18-20 | 土師器 | 焼 | 23.6 | — | 37.9 | 普通 | に-ぶい水褐色 ～に-ぶい黃褐色、黑色 褐色 | 白色粒、片 含 | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 口縁部横擦で、削部底盤 | 削部底盤擦で、削部底盤 |
| 46回 | 1 | H-1 | 56a2-7 ニ-2-7 ニ-2 | 床直 土師器 | 焼 | 22.5 | — | 38.1 | 普通 | に-ぶい褐色 褐色 | 白色粒、褐 含 | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 削部底盤擦で、削部底盤 |
| 2 | H-1 | 14b3-15 ニ-3-12 | 床直 土師器 | 焼 | 23.4 | — | 39.4 | 普通 | 普通 | 褐色～に-ぶい白色粒、黑色 褐色 | 白色粒、褐 含 | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 口縁部横擦で、削部底盤 | 削部底盤擦で、削部底盤 |
| 3 | H-1 | 19b3-16 ニ-1-7 ニ-1-7 ニ-15-17 裏直面 | 床直* 土師器 | 焼 | 22.6 | — | — | 普通 | 普通 | 明赤褐色～褐色 褐色 | 白色粒、褐 含 | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 口縁部横擦で、削部底盤 | 削部底盤擦で、削部底盤 |
| | 4 | H-1 | 魔左地1 7ニ-2-16b 電石油2-5 電石油2-5 5-4 | 土師器 | 焼 | 23.0 | — | — | 普通 | 褐色～に-ぶい白色粒、褐 色粒、褐 含 | 白色粒、褐 含 | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 口縁部横擦で、削部底盤 | 削部底盤擦で、削部底盤 |
| 47回 | 1 | H-1 | 4-8-10 下唇+ 電石油2-5 5-4 | 土师器 | 焼 | 22.5 | — | — | 普通 | 褐色 | 白色粒、褐 含 | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 口縁部横擦で、削部底盤 | 削部底盤擦で、削部底盤 |
| | 2 | H-1 | 電石油2 | 土师器 | 焼 | 20.4 | — | — | 普通 | 褐色 | 白色粒、褐 含 | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 口縁部横擦で、削部底盤 | 削部底盤擦で、削部底盤 |
| 3 | H-1 | 4-8-17 中唇 11b2-7-11 -17 | 床直* 土师器 | 焼 | 25.0 | — | — | 普通 | 普通 | に-ぶい褐色 ～に-ぶい褐色 白色粒、褐 含 | 白色粒、片 石英、褐 含 | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 口縁部横擦で、削部底盤 | 削部底盤擦で、削部底盤 |
| | 4 | H-1 | 5-14b2-2 ニ-17 | 床直* 土师器 | 焼 | 28.9 | 11.8 | 35.1 | 普通 | 褐色 | 白色粒、片 石英、褐 含 | 口縁部横擦で、削部底盤・斜位 底所り | 口縁部横擦で、削部底盤 | 削部底盤擦で、削部底盤 |
| 48回 | 1 | H-2 | D1-4 | 上面 土师器 | H- | 13.6 | — | 4.7 | 普通 | 褐色 | 白色 含 | 口縁部横擦で、体底削り | 口縁部横擦で、体底削り | 口縁部横擦で、自然袖付 |
| | 2 | H-2 | 109アレ 上唇 | 須地器 | H- | (13.6) | 8.8 | 4.3 | 通常 | 灰白色 | 砂多量含 | 凹底、口縁部に自然袖付 | 凹底、口縁部に自然袖付 | 凹底、口縁部に自然袖付 |

第13長 清水V遺跡 遺物観察表（2）

| 標題No | 番号 | 通称名 | 区 | 層 | 種類 | 器種 | 法長(cm) | 口径 | 底形 | 器底 | 成・整形方法の特徴 | | 外観 | 内面 | 備考 | |
|------|-----|------------------------|-----|-----|--------|--------|--------|-------|--------------------|------------------------|-----------------|---|---|---|------------------------------|--------------|
| | | | | | | | | | | | ①焼成 | ②焼成 | ③焼成 | 焼成 | | |
| 48回 | 3 | H-2 | 9 | 床直 | 須恵器 | 坪 | (11.8) | 8.5 | 3.7 | 圓孔 | 灰白色 | 絆松、小體 白色粒、少部分 露少量含 | 底部~底部 2/3 | 回転燒成で、底部切切り 回転燒成で、底部切切り後削 回転燒成で、底部切切り後削 | 底部切切り後削 底部切切り後削 | 底山酒呑き |
| 4 | H-2 | 9 | 床直 | 須恵器 | 坪 | (6.5) | 10.3 | (6.5) | 3.7 | 圓孔 | 灰白色 | 絆松、小體 白色粒、少部分 露少量含 | 底部~底部 2/3 | 回転燒成で、底部切切り後削 回転燒成で、底部切切り後削 | 底部切切り後削 | 底山酒呑き |
| 5 | H-2 | 5C | 3 | 須恵器 | 瓶 | — | — | — | — | 瓶化焰 | 灰色 | 絆松、白色 粘合 | 平行四辺 | 平行四辺 | 同心円当り | |
| 6 | H-2 | 電3 | 土師器 | 瓶 | 21.4 | 5.1 | 36.3 | 普通 | 褐色~にぶい 褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 口縁部燒成で、瓶底斜削削 口縁部燒成で、瓶底斜削削 | 口縁部燒成で、瓶底斜削削 口縁部燒成で、瓶底斜削削 | 瓶底斜削削 | 瓶底斜削削 | |
| 7 | H-2 | 電2+電3 | 土師器 | 瓶 | (21.1) | 5.2 | 35.2 | 普通 | 褐色~にぶい 褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 口縁部燒成で、瓶底斜削削、斜位 斜位斜削削 | 口縁部燒成で、瓶底斜削削、斜位 斜位斜削削 | 斜位斜削削 | 斜位斜削削 | |
| 8 | H-2 | 電1+電 | 土師器 | 瓶 | 26.0 | — | — | 普通 | 褐色~明赤褐色 褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 口縁部燒成で、瓶底斜削削、斜位 口縁部燒成で、瓶底斜削削、斜位 斜位斜削削 | 口縁部燒成で、瓶底斜削削、斜位 口縁部燒成で、瓶底斜削削、斜位 斜位斜削削 | 斜位斜削削 | 斜位斜削削 | |
| 49回 | 1 | H-4 | 3+4 | 床直* | 須恵器 | 坪 | (13.6) | 8.0 | 3.5 | 圓孔 | 灰白色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 中位~側部 中位~側部 | 回転燒成調整、底部右回転 回転燒成調整、底部右回転 | 回転燒成調整 | 回転燒成調整 |
| 2 | H-4 | 8 | 床直 | 土師器 | 瓶 | (22.2) | — | — | — | 普通 | 明赤褐色~明 褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 口縁部燒成で、斜位削削 | 口縁部燒成で、斜位削削 | 斜位削削 | 斜位削削 |
| 3 | H-5 | 2+3+4+5 1-C | 床直 | 土師器 | 坪 | 10.7 | — | 3.1 | 普通 | 褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 口縁部燒成で、体部削削 口縁部燒成で、体部削削 | 口縁部燒成で、体部削削 口縁部燒成で、体部削削 | 体部削削 | 体部削削 |
| 4 | H-5 | 斜裁六 | 2 | 須恵器 | 坪 | 13.2 | 6.2 | 3.6 | 圓孔 | 黑色~灰褐色 黑色~灰褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 回転燒成調整、底部右回転 回転燒成調整、底部右回転 | 回転燒成調整、底部右回転 回転燒成調整、底部右回転 | 回転燒成調整 | 回転燒成調整 |
| 5 | H-5 | 斜裁六 | 2 | 須恵器 | 坪 | 13.5 | 5.4 | 4.9 | 圓孔 | 黑色~灰褐色 黑色~灰褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 回転燒成調整、底部右回転 回転燒成調整、底部右回転 | 回転燒成調整、底部右回転 回転燒成調整、底部右回転 | 回転燒成調整、底部右回転 回転燒成調整、底部右回転 | 回転燒成調整、底部右回転 |
| 6 | H-5 | 4+(0.13)電床直+ 1-C | 土師 | 須恵器 | 碗 | (14.1) | 7.0 | 5.6 | 圓孔 | 灰黃褐色~灰 黃褐色~灰 黃褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 回転燒成調整、底部右回転 回転燒成調整、底部右回転 | 回転燒成調整、底部右回転 回転燒成調整、底部右回転 | 回転燒成調整、底部右回転 回転燒成調整、底部右回転 | 回転燒成調整、底部右回転 |
| 7 | H-5 | 4 | 床直 | 須恵器 | 碗 | 12.9 | 6.5 | 3.3 | 圓孔 | 灰褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 回転燒成調整、高台部削削 回転燒成調整、高台部削削 | 回転燒成調整、高台部削削 回転燒成調整、高台部削削 | 高台部削削 | 高台部削削 |
| 8 | H-5 | 3+電+電 2+電3+電 4+C | 床直 | 土師器 | 瓶 | (21.0) | (4.0) | 25.1 | 普通 | 灰黃褐色~灰 黃褐色~灰 黃褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 回転燒成調整、斜位削削 回転燒成調整、斜位削削 | 回転燒成調整、斜位削削 回転燒成調整、斜位削削 | 斜位削削 | 斜位削削 |
| 9 | H-5 | 電1+電2+ 電3+電 4+C | 須恵器 | 瓶 | — | 14.8 | — | 圓孔 | 灰白色~灰褐色 灰白色~灰褐色 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 白色粒、瓶 白色粒、瓶含 | 回転燒成調整、斜位削削、底部 回転燒成調整、斜位削削、底部 | 回転燒成調整、斜位削削、底部 回転燒成調整、斜位削削、底部 | 斜位削削 | 斜位削削 | |

第14表 清水V遺跡 遺物観察表 (3)

| 標印No | 番号 | 通称名 | 区 | 層 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 法長(cm) | 成・整形方法の特徴 | | 内面 | 備考 |
|------|----|------|-------|------|-----|------|--------|--------|--------|------------|---------------|------------------------------|------------|
| | | | | | | | | | | ①焼成 還元炉 | ②色調 白色 | ③歯士 白色粒、褐 色粒、融合 部中心 | |
| 49回 | 10 | H-5 | 電2- | 電3 | 須恵器 | 壺 | — | 11.8 | — | — | — | 口縁部削除、底部切 | 回転機械削除 |
| 50回 | 1 | H-6 | 6 | 床直 | 土師器 | 壺 | 12.0 | — | 3.9 | 普通 | 褐色 | 口縁部削除、体部無調整、口縁部削除、底 部切 | 回転機械削除 |
| | 2 | H-6 | 9 | 下横 | 土師器 | 壺 | (14.0) | — | 4.3 | 普通 | 褐色 | 口縁部削除、体部削除、口縁部削除、底 部切 | 回転機械削除 |
| | 3 | H-6 | 6 | 床直 | 須恵器 | 壺 | 11.8 | 7.3 | 3.5 | 還元炉 | 灰色 | 口縁部削除、体部削除、口縁部削除、底 部切 | 回転機械削除 |
| | 4 | H-6 | 6 | 床直 | 須恵器 | 壺 | (14.0) | 9.3 | 4.3 | 還元炉 | 灰色 | 口縁部削除、底部切 | 回転機械削除 |
| | 5 | H-6 | サブトレ | 上層 | 須恵器 | 長頸壺 | — | 11.8 | <2.9> | 還元炉 | 灰色 | 口縁部削除、外周及び背面に 自然輪付着 | 回転機械削除、底部切 |
| | 6 | H-6 | 9 | 中層 | 須恵器 | 壺 | — | (11.2) | <3.3> | 酸化焰 | 灰色 | 口縁部削除、底部切 | 回転機械削除 |
| | 7 | H-6 | 10 | 中層 | 須恾器 | 壺 | — | — | — | 酸化焰 | 褐色 | 口縁部削除、底部切 | 回転機械削除 |
| | 8 | D-1 | 5 | 土師器 | 壺 | — | 12.0 | — | 3.9 | 普通 | 褐色 | 口縁部削除、体部削除、口縁部削除、底部切 | 回転機械削除 |
| 52回 | 1 | KM-1 | 3 | 土師質 | かわら | け(田) | 6.5 | 3.7 | 酸化焰 | にぶい褐色 | 黑色 | 小口部～底部 削除、底部切 | 回転機械削除、底部切 |
| | 2 | KM-1 | 1+2サブ | トレ直 | 土師質 | かわら | (14.9) | 6.5 | 4.1 | 酸化焰 | 内焰色、外焰 白色 | 口縁部削除、底部切 | 回転機械削除 |
| | 3 | KM-1 | 3 | 土師質 | かわら | け(田) | (11.6) | 4.7 | 3.4 | 酸化焰 | にぶい褐色 | 口縁部削除、底部切 | 回転機械削除 |
| | 4 | KM-1 | 2 | 土師質 | かわら | け(田) | (11.7) | 4.8 | 4 | 酸化焰 | 褐色 | 口縁部削除、底部切 | 回転機械削除 |
| | 5 | KM-1 | 2 | 土師質 | かわら | け(田) | — | 7.7 | <2.2> | 酸化焰 | 浅黄褐色 | 口縁部削除、底部切 | 回転機械削除 |
| | 6 | KM-1 | 2 | 良質陶器 | 壩り林 | — | 8.3 | <5.8> | 酸化焰 | にぶい水褐色 | 褐色 | 底部切 | 回転機械削除、底部切 |
| | 7 | KM-1 | 4 | 瓦質陶器 | 壩り林 | — | — | <7.3> | 還元炉 | 灰色 | 粘土色、白色 小口部 | 口縁部削除、底部切 | 回転機械削除、底部切 |

第15表 清水V遺跡 遺物観察表（4）

| 標印No | 番号 | 通称名 | 区 | 層 | 種類 | 器種 | 法長(cm) | 口径 | 底形 | 器底 | 成・鑿形挖法の特徴 | | | 内面 | 備考 |
|------|----|------|-----|---|------|-----|--------|--------|--------|-----|-------------------------|-------------|-------------------|-------|-------|
| | | | | | | | | | | | ①焼成 | ②色調 | ③衛土 | | |
| 5288 | 8 | KM-1 | 1-2 | | 瓦質陶器 | 杯 | (31.0) | (16.4) | (13.5) | 燒化輪 | 絆粒、白色 粘粒、黑色、厚1/3 | 口縁部～底 内側 | 回転螺旋で 削成 | 回転螺旋で | 回転螺旋で |
| | 9 | KM-1 | 1 | | 瓦質陶器 | 内耳土 | (26.5) | — | — | 燒化輪 | 絆粒、白色 粘粒、黑色、厚 1/3 | 口縁部破片 舌 | 回転螺旋で、 口縁部折り返し | 回転螺旋で | 回転螺旋で |
| | 10 | KM-1 | 4 | | 瓦質陶器 | 内耳土 | (25.1) | — | — | 燒化輪 | 絆粒、白色 粘粒、小破片 | 口縁部破片 舌 | 回転螺旋で | 回転螺旋で | 回転螺旋で |

石器・石製品・土器品等観察表

| 標印No | 番号 | 区 | 層 | 器種 | 形態 | 材質 | 長さ (mm) | 幅 (mm) | 厚さ (mm) | 重量 (g) | 備考 |
|------|----|----|------|----|----|-------|------------|-----------|------------|-----------|---------|
| 5088 | 9 | 9 | 下層 | 刀子 | 陶刃 | 真製 | <89.5 | 19.2 | 6.2 | 24.3 | 先端・基部欠損 |
| | 10 | 電 | 上層 | 鏟 | 陶刃 | 真製 | 56.2 | 26.8 | 4.9 | 20 | |
| | 11 | 1 | | ? | 手刃 | 真製 | 34.9 | 20.7 | 17.5 | 18.8 | |
| | 12 | 11 | 中層 | 鏟 | 真製 | 91.4 | 62.4 | 38.5 | 207.7 | | |
| | 13 | 14 | 木底 | 鏟 | 真製 | 61.3 | 88.1 | 14.8 | 127.5 | | |
| | 14 | 4d | 3 | 鏟 | 真製 | 71.9 | 77.2 | 43.1 | 200.3 | | |
| | 15 | 19 | 籽穴上層 | 鏟 | 真製 | 40.5 | 45.5 | 27.8 | 60.7 | | |
| | 16 | 18 | 末底 | 鋤口 | 十脚 | <33.9 | 57.4 | 60.2 | | | |
| | 21 | | 土窓 | | | 45.9 | 15.4 | 15.3 | | | |

第16表 清水V遺跡 遺物観察表(5)

| 種別No. | 番号 | 飯番号 | 道標名 | 区 | 解 | 種類 | 器種 | 法量(cm) | 外 | | 内面 | | 備考 | |
|-------|----|-----|-----|--------|---|-----|-----------|--------|--------|-------|-----------|-----------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|
| | | | | | | | | | 口径 | 氣柱 | 窓高 | (焼成 | 予色調 | |
| 59則 | 1 | 2 | H-1 | D-3 | | 土師器 | 环(帽文士器) | (4.9) | 8.4 | 4.5 | 普通 | 相色 | (3)白土 砂粒、小砾含 砂粒、小砾含 | 口輪部崩壊で、体部崩壊+ 取扱時及び油滴き状の 凹凸で |
| | 2 | 1 | H-1 | 8 | | 須惠器 | 环(帽文士器) | — | 12.0 | 8.6 | 3.2 | 還元焰 にぼやかし 色 | 白色粘含 砂粒、白色 砂粒、小砾含 | 口輪部崩壊で、体部崩壊+ 取扱時及び油滴き状の凹 凸で |
| | 3 | 2 | H-2 | 12 | 2 | 土師器 | 蓋 | — | 6.8 | <2> | 普通 | 相色 | 白色粘含 砂粒、黑色 砂粒、黑色 | 口輪部崩壊+、底部瓦形部 にぼやかし 色 |
| | 4 | 1 | H-2 | 10 | 3 | 須惠器 | 環 | 15.4 | 5.6(鉢) | 2.7 | 還元焰 相色 | 白色粘含 砂粒、黑色 砂粒、黑色 | 口輪部崩壊+、底部瓦形部 にぼやかし 色 | |
| | 5 | 1 | H-3 | 8 | 3 | 土師器 | 环 | 10.8 | — | 3.5 | 普通 | 相色 | 白色粘含 砂粒、石英 砂粒、石英 含 | 口輪部崩壊で、体部崩壊+ 取扱時及び油滴き 色 |
| | 6 | 2 | H-3 | 4 | 3 | 土師器 | 环 | 12.4 | — | 4.0 | 普通 | 相色 | 白色粘含 砂粒、黑色 砂粒、黑色 | 口輪部崩壊で、体部崩壊+ 取扱時及び油滴き 色 |
| | 7 | 3 | H-3 | 7 | 3 | 土師器 | 环 | 13.0 | — | 4.8 | 普通 | 明褐色 | 白色粘含 砂粒、白色 砂粒、白色 | 口輪部崩壊で、体部崩壊+ 取扱時及び油滴き 色 |
| | 8 | 12 | H-3 | 11 | 3 | 土師器 | 环 | 11.2 | — | 3.8 | 普通 | 相色 | 白色粘含 砂粒、白色 砂粒、白色 含 | 口輪部崩壊で、体部崩壊+ 取扱時及び油滴き 色 |
| | 9 | 10 | H-3 | 8 | 3 | 土師器 | 环 | (12.7) | — | (4.0) | 普通 | 相色 | 白色粘含 砂粒、黑色粘 砂粒、黑色粘 含 | 口輪部崩壊で、体部崩壊+ 取扱時及び油滴き 色 |
| | 10 | 11 | H-3 | 9 | 2 | 須惠器 | 环(錐) | (19.1) | (13.3) | 2.8 | 還元焰 相色 | 白色粘含 砂粒、白色 砂粒、白色 含 | 口輪部崩壊+、底部瓦形部 にぼやかし 色 | |
| | 11 | 4 | H-3 | 12(b)2 | 3 | 須惠器 | 台付盤 | — | 13.2 | — | 還元焰 相色 | 白色粘含 砂粒、白色 砂粒、白色 含 | 口輪部崩壊+、底部瓦形部 にぼやかし 色 | |
| | 12 | 5 | H-3 | 12(b)1 | 3 | 土師器 | 小形燒 | 9.8 | — | 10.0 | 普通 | 相色 | 白色粘含 砂粒、白色 砂粒、白色 含 | 口輪部崩壊で、底部瓦形部 にぼやかし 色 |
| | 13 | 8 | H-3 | 16 | 3 | 須惠器 | 蓋 | — | — | — | 還元焰 相色 | 白色粘含 砂粒、白色 砂粒、白色 含 | 口輪部崩壊+、底部瓦形部 にぼやかし 色 | |
| | 14 | 7 | H-3 | 9 | 1 | 土師器 | 燒 | 22.2 | 4.4 | 33.9 | 普通 | にぼやかし 色 | 白色粘含 砂粒、白色 砂粒、白色 含 | 口輪部崩壊で、底部瓦形部 にぼやかし 色 |

第17表 清水VI遺跡 遺物組織表(1)

| 標印No | 番号 | 通称名 | 区 | 層 | 種類 | 形態 | 法面(cm) | 器高 | 成・熟形特徴 | | 斜面 削り | 前面 削り | 背面 削り | 参考 | |
|------|----|-----|--------------|-----|-----|------------|--------------|-------|--------|-----|---------------------------------|---|----------------------|-------------|----------------|
| | | | | | | | | | ①底成 | ②色調 | | | | | |
| 60回 | 1 | H-3 | 電7964 | | 土師器 | 小砂粒 | 13.6 | — | 17.5 | 普通 | 白色粒、薄 砂粒、白色 粒、黑色粒、 小砂粒 | 白色粒、薄 砂粒、白色 粒、黑色粒、 小砂粒、片岩 合 | 口部原縁無地、斜面削り | 口部原縁無地、斜面削り | |
| | 2 | H-3 | 電7963 | | 土師器 | 黑 | 23.7 | — | <22.5 | 普通 | 稍色 | 口部原縫無地、斜面削り、「く」の字 形原縫無地、斜面削り | 口部原縫無地、斜面削り | 斜面削り | |
| | 3 | H-3 | 電No.1 | | 土師器 | 黑 | 24.7 | — | <8.0 | 普通 | 稍色 | 口部原縫無地、斜面削り、「く」の字 形原縫無地、斜面削り | 口部原縫無地、斜面削り | 斜面削り | |
| | 4 | H-4 | 13+14ペ ルト | 3+2 | 須惠器 | 环 | 14.4 | 8.4 | 4.2 | 遇瓦焰 | 灰黄色~灰色 色 | 口部原縫調整、底部右部斜 切 | 口部原縫調整、底部右部斜 切 | 斜面削り | |
| | 5 | H-4 | 14 | 3 | 須惠器 | 环 | (1.5) | 11.0 | 4.3 | 遇瓦焰 | 灰黄色 | 口部原縫調整、底部切り離し | 口部原縫調整、底部切り離し | 斜面削り | |
| | 6 | H-4 | 10 | 2 | 須惠器 | 环 | (1.6) | (6.8) | 3.8 | 遇瓦焰 | 灰黄色 | 口部原縫で、底部切り後削 斜面削り | 口部原縫で、底部切り後削 斜面削り | 斜面削り | |
| | 7 | H-4 | 7サアトレ | 1 | 土師器 | 环(暗 文)器 | (1.3) | — | (4.5) | 普通 | 稍色 | 口部原縫で、底部~底部削 斜面削り | 口部原縫で、底部~底部削 斜面削り | 斜面削り | 内面に「井」 字の焼唐 |
| | 8 | H-4 | 電+15 | 1 | 須惠器 | 环(III) | (1.6) | (1.3) | 2.5 | 遇瓦焰 | 灰黄色 | 口部原縫で、底部切り後削 斜面削り | 口部原縫で、底部切り後削 斜面削り | 斜面削り | |
| | 9 | H-4 | 11 | 1 | 須惠器 | 黑 | <11.2>(編5.1) | <1.8> | — | 遇瓦焰 | 灰黄色 | 口部原縫で、斜面削り | 口部原縫で、斜面削り | 斜面削り | |
| | 10 | H-4 | 14 | 3 | 土師器 | 黑 | 15.0 | — | 9.8 | 普通 | 白色粒、薄 砂粒、白色 粒、黑色粒、 小砂粒 | 白色粒、薄 砂粒、白色 粒、黑色粒、 小砂粒 | 口部原縫無地、斜面削り | 口部原縫無地、斜面削り | |
| | 11 | H-4 | 14アトトレ | 1 | 須惠器 | 黑 | — | — | — | 遇瓦焰 | 灰黄色 | 斜面削り | 斜面削り | 斜面削り | 同心円当目 |
| | 12 | H-4 | 電内 | | 土師器 | 黑 | (21.1) | — | <9.8> | 普通 | 稍色 | 口部原縫無地、斜面削り | 口部原縫無地、斜面削り | 斜面削り | |

第18表 清水VII遺跡 遺物概要表 (2)

| 標題No | 番号 | 通稱名 | 区 | 層 | 種類 | 形態 | 法縫(cm) | 口徑 底径 (mm) | 器高 (mm) | 外側 | | 内側 | | 備考 | |
|------|----|------|-------|------|------|----------|--------|------------------|------------|-----|------------------------------------|---|--------------------------------------|------------------------------------|----|
| | | | | | | | | | | 前 | 後 | 側 | 側 | | |
| 61回 | 1 | H-5 | 8 | | 土師器 | 甕 | (20.9) | - | <11.0> | 普通 | 赤褐色 | 砂粒、白色 粘土含 砂粒、黑色粘土 | 口縫底~側 上半部斜面削り・縫直付 上半部1/3 削り | 口縫底削れで、側上半部 上半部斜面削れで、側上半部 削れ | 参考 |
| 2 | 1 | H-5 | 11~12 | 1 | 土師器 | 甕 | (21.6) | - | <9.7> | 普通 | 暗赤褐色 | 砂粒、白色 粘土含 砂粒、黑色粘土 | 口縫底削れで、側斜削 側斜削 半部底削れ1/3 | 口縫底削れで、側上半部 側斜削 側斜削 | |
| 3 | 3 | H-5 | 15 | | 土師器 | 甕 | (20.9) | - | <11.3> | 普通 | 赤褐色 | 砂粒、白色粘土 砂粒、黑色粘土 | 口縫底削れ(底丸)、側上半部 側斜削(底丸) | 口縫底削れ(底丸)、側上半部 側斜削(底丸) | |
| 4 | 4 | H-5 | 7 | 3 | 須惠器 | 甕 | - | - | - | 内灰色 | 赤褐色 | 砂粒、白色 粘土含 砂粒、黑色粘土 | 平行叩打 | 同心円当打 | |
| 5 | 3 | D-13 | | | 須惠器 | 环 | (14.3) | (9.6) | 2.9 | 透光燒 | 灰白色 | 砂粒、黑色 粘土多量含 砂粒、白色 粘土含 砂粒、黑色粘土 | 回転機械で、底部側斜 無調整 | 回転機械で、底部側斜 無調整 | |
| 6 | 5 | D-3 | 4 | | 須惠器 | 高台付 碗 | - | 6.5 | <3.0> | 透光燒 | 灰白色 | 砂粒、白色 粘土含 砂粒、黑色粘土 | 回転機械で、底部側斜 回転台 | 回転機械で、底部側斜 回転台 | |
| 7 | 4 | D-3 | 4 | | 須惠器 | 环 | - | 6.5 | <1.7> | 陶化焰 | 焰色 | 砂粒、白色 粘土含 砂粒、黑色粘土 | 回転機械で、底部側斜 回転台 | 底部側斜で、底面端突き 「土」の開 口 | |
| 8 | 2 | D-3 | 4 | 中層 | 須惠器 | 高台付 碗 | (14.4) | 6.5 | 5.3 | 陶化焰 | にぶい赤褐色小 砂粒、白色 粘土含 砂粒、黑色粘土 | 2/3 | 回転機械で、底部側斜 回転台 | 底部側斜で、底面端突き 「土」の開 口 | |
| 68回 | 1 | I-1 | No.1 | | 瓦質陶器 | 内江土 | - | - | - | 陶化焰 | 内灰白 褐色 | 砂粒、白色 粘土含 砂粒、白色 粘土含 | 回転機械 回転機械 | 回転機械で、煤付着 | |
| | 2 | 2 | I-1 | No.2 | 瓦質陶器 | 林 | - | - | - | 陶化焰 | 内灰白 褐色 | 砂粒、白色 粘土含 | 回転機械 | 回転機械で 回転機械 | |

() は推定値。 < > は実行値。

| 石器・石製品・土製品等観察表 | | | | | | | | | | | | |
|----------------|----|-----|---|---|----|----|----|------------|-----------|------------|-----------|----|
| 標題No | 番号 | 通稱名 | 区 | 層 | 種類 | 形態 | 材質 | 長さ (mm) | 幅 (mm) | 厚さ (mm) | 重保 (g) | 備考 |
| 61回 | 9 | D-3 | 4 | 中 | 不明 | 円形 | 質軟 | 52.2 | <48.9> | 6.5 | 25.3 | |

第19表 清水VII遺跡 遺物観察表 (3)

写 真 図 版

清水II遺跡

図版1



清水II遺跡 全景



清水II遺跡 遠景(A1区)

図版2

清水II遺跡



H-1号住居址



H-1号住居址 遺物出土状況



H-1号住居址 電



H-2号住居址



H-2号住居址 遺物出土状況



H-2号住居址 電



H-3号住居址



H-3号住居址 遺物出土状況

清水 II 遺跡



H-4号住居址



H-4号住居址 遺物出土状況



H-5号住居址



H-5号住居址 遺物出土状況



H-6号住居址



H-6号住居址 遺物出土状況



H-7号住居址



H-7号住居址 窯

図版3

図版4



H-8号住居址



H-9号住居址



H-9号住居址 窑



H-9号住居址 窑断面



K-2・H-10号住居址



H-10号住居址 遺物出土状況



H-10号住居址 窑



T-1号竪穴状遺構

清水II遺跡

清水II遺跡

図版5



K-1号窯



K-1号窯 遺物出土状況



K-1号窯 遺物出土状況



K-1号窯 掘り方



K-2号窯



K-2号窯 遺物出土状況



K-2号窯 遺物出土状況



K-2号窯 掘り方

図版6



K-3号窯

清水II遺跡



K-3号窯 遺物出土状況



K-3号窯 挿り方



粘土探掘坑



粘土探掘坑 断面



粘土探掘坑 断面



井戸



調査状況

清水II遺跡

図版7



H-1号住居址 壺(1)



H-1号住居址 壺(3)



H-1号住居址 壺(4)



H-2号住居址 壺(1)



H-2号住居址 壺(2)



H-2号住居址 壺(3)



H-2号住居址 壺(4)



H-2号住居址 壺(6)



H-2号住居址 壺(7)



H-3号住居址 壺(1)



H-3号住居址 壺(4)



H-4号住居址 壺(1)



H-4号住居址 壺(2)



H-5号住居址 壺(1)



H-5号住居址 壺(2)



H-5号住居址 壺(3)



H-5号住居址 壺(4)

図版8

清水II遺跡



H-6号住居址 壱 (1)



H-6号住居址 壱 (5)



H-7号住居址 壱 (1)



H-7号住居址 壱 (5)



H-9号住居址 壱 (1)



H-9号住居址 壱 (2)



H-10号住居址 壱 (6)



H-10号住居址 壱 (7)



H-10号住居址 壱 (11)



H-10号住居址 壱 墨書き (12)



H-10号住居址 高台付椀 (13)



墨書き



K-1号窯址 内耳土鍋



K-1号窯址 内耳土鍋



K-1号窯址 内耳土鍋



K-2号窯址 内耳土鍋



K-2号窯址 内耳土鍋



K-2号窯址 内耳土鍋



粘土探査坑 羽口



粘土探査坑 羽口

清水V遺跡

図版9



清水V遺跡 遠景



清水V遺跡 全景

図版10

清水V遺跡



J-1号住居址



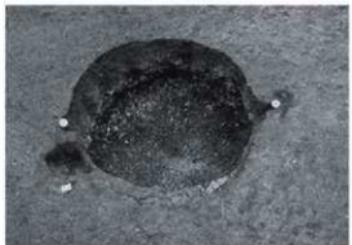
J-1号住居址 遺物出土状況



D-4号土坑



D-4号土坑 断面



D-7号土坑



D-8号土坑



D-10号土坑



縄文包含層 1H型「リット」周辺

清水V遺跡

図版11



H-1号住居址



H-1号住居址 遺物出土状況



H-1号住居址 窯



H-1号住居址 掘り方



H-2号住居址



H-2号住居址 遺物出土状況



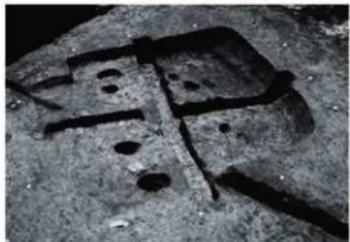
H-2号住居址 窯



H-1・2号住居址 全景

図版12

清水V遺跡



H-3号住居址



H-4号住居址



H-5号住居址



H-5号住居址 遺物出土状況



H-5号住居址 窯



H-6号住居址



H-6号住居址 窯



T-1号竖穴状遗構

清水V遺跡

図版13



HT-1号掘立柱建物址



S-1号集石



S-2号集石



S-3号集石



KM-1号窯址



KM-1号窯址



KM-1号窯址 挖り方



A区深掘り土層断面

图版14

清水V遗迹



J-1号住 (1H-8G6)



J-1号住 (1H-11G6)



D-4号土坑



石簇・石器



石器A・B



打制石斧



H-1号住居址 坩 (1)



H-1号住居址 坩 (2)



H-1号住居址 坩 (5)



H-1号住居址 坩 (6)



H-1号住居址 坩 (7)



H-1号住居址 坩 (8)



H-1号住居址 脚部 (11)



H-1号住居址 鞘 (12)



H-1号住居址 小形甕 (14)

清水V遺跡

図版15



H-1号住居址 小形甌（15）



H-1号住居址 罠右袖 長胴甌（2）



H-1号住居址 罠左袖 長胴甌（4）



H-1号住居址 長胴甌（1）



H-1号住居址 長胴甌（2）



H-1号住居址 長胴甌（16）



H-1号住居址 長胴甌（17）



H-1号住居址 長胴甌（3）



H-1号住居址 甌（4）

图版16

清水V遗址



H-2号住居址 坯 (1)



H-2号住居址 坯 (2)



H-2号住居址 長胴甌 (6)



H-2号住居址 長胴甌 (7)



H-2号住居址 坯 (3)



H-2号住居址 坯 (4)



H-4号住居址 坯 (1)



H-5号住居址 坯 (4)



H-5号住居址 坯 (6)



H-5号住居址 瓢 (8)



H-5号住居址 盘 (7)



H-6号住居址 坯 (1)



H-6号住居址 铁 (9)



H-6号住居址 坯 (3)



H-5号住居址 坯 (4)



H-1号住居址 铁 (10)



清水VI遺跡と桜下城



清水VI遺跡全景（中世）

図版18

清水VI遺跡



H-1号住居址



H-1号住居址 遺物出土状況



H-1号住居址 磚



H-1号住居址 振り方



H-2号住居址



H-2号住居址 遺物出土状況



H-2号住居址 磚



H-2号住居址 振り方

清水VI遺跡

図版19



H-3号住居址



H-3号住居址 遺物出土状況



H-3号住居址 瓢



H-4号住居址



H-4号住居址 遺物出土状況



H-4号住居址 瓢



H-4号住居址 挖り方



H-5号住居址

図版20



H-5号住居址



T-1号竪穴建物



I-1号井戸



D-11号地下式土坑

清水VI遺跡



H-5号住居址 磨



T-1号竪穴建物 土層断面



D-10号地下式土坑



D-11上層断面

清水VI遺跡

図版21



M-2号堀 確認状況



M-1号堀



M-2号堀 西壁



E区ピット群



M-2号堀 東

图版22

清水VI遗址



H-1号住居址 环 (1)



环内面 (縫文)



H-1号住居址 环 (2)



H-2号住居址 环内面 (3)



H-2号住居址 盖 (4)



H-3号住居址 环



H-3号住居址 环



H-3号住居址 环



H-3号住居址 高盤



H-3号住居址 小形甕



H-3号住居址 甕 (左・右)



H-4号住居址 环 (4)



H-4号住居址 环 (5)



H-4号住居址 环内面划痕 (6)



H-4号住居址 瓦



环内面 (刻痕)



D-3号土坑 瓦底部墨書き (7)



D-3号土坑 高台付瓶内面 (8)

発掘調査報告書 抄録

| | |
|---------|---|
| ふりがな | しみずにいせき・しみずごいせき・しみずろくいせき |
| 書名 | 清水II遺跡・清水V遺跡・清水VI遺跡 |
| 副書名 | 市営原市住宅団地建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 井上慎也・千田茂雄・松澤浩一・廻古環境研究所 |
| 編集機関 | 安中市教育委員会 |
| 編集機関所在地 | 379-0292 群馬県安中市松井田町新堀245 TEL 027-382-1111 |
| 発行年 | 西暦2007年(平成19年)3月20日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コ一ド | | 北緯 ° ° ° | 東経 ° ° ° | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|--------|------------------|--------|------|-------------|-------------|---|---------------------|--------------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 清水II遺跡 | 安中市原市一丁目字清水・久昌寺西 | 102113 | C-10 | 36°18'53" | 138°51'48" | 19950426 ~ 19950705 19970701 ~ 19970902 20010618 ~ | 1,300m ² | 市営原市住宅団地建替工事 |
| 清水V遺跡 | | | C-14 | | | | 1,750m ² | |
| 清水VI遺跡 | | | C-16 | | | 20010831 | 2,100m ² | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|--------|------------|--------------|--|--|---|
| 清水II遺跡 | 集落址 | 縄文時代 | 住居址1 土坑 | 縄文前期上器(深鉢)・石器(石器、石器、スクレイバー等)、石製品 | 土坑から大形キャリバーフормの深鉢出土。 |
| 清水V遺跡 | 古墳 | | | | |
| 清水VI遺跡 | 生産址 城館址 | 奈良時代 平安時代 | 住居址21 掘立柱建物址1 竪穴状造構2 土坑・集石 | 土師器(火、甕、瓶等) 須恵器(火、蓋、甕等) 邪口、鐵製品(刀子等)、石製品、土鍬 | 律令期を主体とする集落址。 暗文土器、「井」と刻書された土師器環、墨書き土器出土。 |
| | | 中世 | 窯体4 堅穴建物1 掘立柱建物址3 竪穴状造構3 井戸2 粘土採掘坑1 柱穴列2 ビット群 甕2 溝・土坑 | 土師質土器(四) 瓦質陶器(内耳土器、鉢、擂鉢等) 邪口 | 東日本では類例の少ない窯体及びその周辺遺構群(工房址)を検出。 根下城の外堀とその周辺遺構群(堆等)を検出。 |

清水 II 遺跡
清水 V 遺跡
清水 VI 遺跡

—市営原市住宅団地建替事業伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 平成19年3月20日
編集・発行 安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀245
印 刷 朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67